

受刑者、少年院在院者及び少年鑑別所在所者の生活と意識に関する調査（その1：成人編）

矯正協会附属中央研究所 佐藤良彦
木村正孝
北村大
近間真紀子¹
栗栖素子²

キーワード：刑務所、生活満足度、精神状況、職業、犯罪、受刑生活

I はじめに

前号では、少年院在院者及び少年鑑別所在所者の生活と意識に関する調査結果について報告したが、本号では、刑務所在所中の受刑者を対象とした調査結果を報告する。

本研究は、被収容者の改善更生、社会復帰に関する方策を講じるための被収容者の処遇に関する基礎的情報を、組織別の全国統計として広範囲かつ継続的に収集することを目的としている。

おりしも、監獄法がおよそ百年ぶりに全面改正となり、平成18年5月から「刑事施設及び受刑者の処遇等に関する法律」（以下「新法」という。）として施行された³。新法では、旧法に比し受刑者の権利義務や職員の権限の明確化、受刑者の改善更生及び社会復帰のための処遇の充実等を図ることが明記されている。

とりわけ、再犯防止のための矯正処遇のあり方については、科学的な知見に基づいたプログラムによる徹底した教育的処遇の確立が求められ、刑事施設の現場においては、過剰収容という深刻な問題を抱えながらも、その指導内容の策定と実施に職員一丸となって取り組んでいるところであろう。

本調査は新法施行以前に実施され、その調査方法や質問項目の設定に現状とそぐわない部分があるものの、受刑者の収容生活の満足度や就労に対する態度、自己意識等、一般的な価値観について質問項目を設定しているため、本調査の結果を、教育的処遇に係る指導内容の更なる充実を図るための基礎的資料として活用されることを期待したい。

¹ 前客員研究員

² 現所属：矯正研修所仙台支所

³ 平成18年6月8日に、新法は再度「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」と一部改正され、同19年6月から施行されることとなる。

II 目的

全国の刑務所に在所中の受刑者の生活意識及び価値観を調査し、矯正処遇の一層の充実を図るための基礎資料を得る。

III 方法等

1 調査期間

平成17年10月から同年11月末日まで

2 調査対象者

全国の刑事施設から選定した25庁（男子施設18庁、女子施設7庁）の刑務所に在所している受刑者1,000名（男子500名、女子500名）である。

対象施設の選定に際しては、犯罪傾向の進捗で分類された⁴A級（犯罪傾向の進んでいない）受刑者とB級（同傾向の進んでいる）受刑者の調査対象数が同じになるように調整した。医療刑務所は対象から除外した。

調査対象者の選定方法は、各施設の収容定員から一定の基準を設けて算出する方法による。ただし、調査対象者の年齢層に偏りがないうよう、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代以上の5グループに分け、それぞれ同じ比率となるように選定するよう各施設に依頼した。その上で、各施設における対象者の選定に当たっては、無作為系統抽出による選定を各施設に依頼した。

有効回答総数は、男子500名、女子481名、合計981名（有効回答率98.1%）である。また、犯罪傾向の進捗別では、A級491名、B級490名となった。

なお、有効回答であっても、設問によっては無回答・未記入の項目がある場合は欠損値として、それぞれの設問項目の分析対象から除外した。そのため、設問項目の回答総数が有効回答総数と一致しない場合がある。

3 調査方法

調査対象者それぞれが自ら記載する択一回答方式の調査票を用いた。調査対象者の調査への協力は任意とし、無記名方式での回答を求めた。調査実施方法は集団、個別いずれでもよいこととし、調査対象施設の判断にゆだねた。

統計処理する際の統計ソフトは、SPSS for windows ver.12を用いた。

⁴ 新法改正による「分類級」から「処遇指標」への移行により、犯罪傾向の進捗に係る指標が「A級、B級」から「A、B」と変更されたが、本調査が新法改正以前に実施されていることから、調査時における表現を用いている。

IV 調査内容

調査項目は以下のとおりである（調査票の内容は巻末資料30のとおり）。

1 属性

調査対象者の属性について尋ねた項目であり，①性別，②年齢，③最終学歴，④言い渡し刑期，⑤罪名，⑥矯正施設入所回数（刑務所，少年院，少年鑑別所入所回数）について尋ねている。

2 入所前と現在の生活について

①今回の刑務所入所前の人間関係，②生活満足度（20歳以前，20歳以降），③本調査日前1週間の身体的及び精神的状況について尋ねている。

③においては，長期間収容される受刑者の精神的健康状態について把握するための1つの指標として，調査対象者の抑うつ状態を図るための心理尺度である，CES-D Scale 5（うつ病（抑うつ状態）／自己評価尺度）（以下，「CES-D」という。）を用いている。CES-Dは，おおむね15歳以上の一般人を対象としており，全20項目の質問から構成され，抑うつ状態の主要症状が調査日前の1週間でどれだけあったかを頻度別に4段階に分け（「ない」，「1～2日」，「3～4日」，「5日以上」），自己評価させるスケーリングテストである。点数の合計が高得点になるほど抑うつ程度が高いとされ，日本でも高い信頼性，妥当性があるとされている（島ら，1985）。集計の際は，20項目中1項目でも無回答の場合は分析の対象外とした。

3 仕事について

①本件時の就労の有無，②（①で無就業とした場合）本件時不就業であった理由，③調査日時点の職業選択基準について尋ねている。

4 本件事件について

①事件を起こした原因，②再犯に対する不安の程度，③本件時の被害者の有無，④しよく罪方法について尋ねている。

5 受刑生活について

刑務所初入，再入時を問わず，受刑生活全般に関する12項目（宗教教誨，篤志面接，職

5 "The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale"の略。米国国立精神保健研究所(National Institute of Mental Health: NIMH)により1977年に開発された。

業訓練、余暇の過ごし方、他の受刑者との付き合い等)について尋ねている。

V 調査結果

本調査においては、A級受刑者用、B級受刑者用とそれぞれについて調査票を作成して調査を実施したが、集計に当たっては前号調査(その1:少年編)(以下「前回調査」という。)と同様に全体を取りまとめて統計処理した。原則として男女の性別により集計結果を示してはいるものの、受刑者の犯罪傾向の進捗による意識の相違を見るという観点から、設問によってはA級受刑者とB級受刑者の2群とに分けて比較を行っている。

1 基本属性

(1) 性別・年齢

有効回答数は976名(男子499名、女子477名)であり、平均年齢は43.8歳(男子44.0歳、女子43.7歳)であった。回答者のうち、最低年齢は20歳で、最高年齢は77歳であった。

(2) 最終学歴(表1)

回答者(回答総数976名)のうち、中学卒業と答えた者が全体の半数以上(56.3%)を占め、高校卒業を含めると、全体の8割以上を占めた(83.1%)。

表1 最終学歴(性別)

項目	合計	男子	女子
中学卒業	549 (56.3)	262 (52.6)	287 (60.0)
高校卒業	262 (26.8)	140 (28.1)	122 (25.5)
高等専門学校卒業	31 (3.2)	13 (2.6)	18 (3.8)
高卒後専門学校卒業	44 (4.5)	22 (4.4)	22 (4.6)
短大卒業	7 (0.7)	2 (0.4)	5 (1.0)
大卒又はそれ以上	33 (3.4)	29 (5.8)	4 (0.8)
その他	50 (5.1)	30 (6.0)	20 (4.2)
合計	976 (100.0)	498 (100.0)	478 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

(3) 言い渡し刑期（表2）

回答者（回答総数976名）のうち、全体では、「2年を超えて3年以下」の者が最も多く（29.8%）、次いで「5年を超える」者が全体の4分の1（25.7%）を占めた。男女別に見ると、男子は「5年を超える」者が最も多く（34.9%）、女子は「2年を超えて3年以下」の者が最も多かった（35.2%）。

表2 言い渡し刑期（性別）

項目	合計	男子	女子
1年以下	28 (2.9)	15 (3.0)	13 (2.7)
2年以下	194 (19.9)	75 (15.0)	119 (24.9)
3年以下	291 (29.8)	123 (24.5)	168 (35.2)
5年以下	212 (21.7)	112 (22.4)	100 (21.0)
5年を超える	251 (25.7)	174 (34.9)	77 (16.1)
合計	976 (100.0)	498 (100.0)	477 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

(4) 罪名

回答者（回答総数934名）について、今回受刑することとなった主な罪名について見たものが表3である。

覚せい剤取締法違反が全体の約3分の1（35.7%）を占め、次いで窃盗（18.3%）、殺人（12.6%）の順となっている。

男女別に見ると、女子では、覚せい剤取締法違反の割合が最も多く、半数以上を占め（52.1%）、男子は窃盗が最も多かった（20.6%）。

(5) 施設歴

回答者の調査時点におけるこれまでの矯正施設の入所（入院）歴について調査した。ただし、入所（入院）歴欄が空欄の場合や、少年鑑別所入所回数より少年院入院回数が多い場合は欠損値として処理した。

ア 刑務所入所歴（表4）

回答者（回答総数973名）における刑務所入所回数は、1回の者が全体の半数を超えたものの（56.6%）、10回以上収容されている受刑者は、全体の約2%（20名）を占めた。回答者中、最多入所回数は14回であった。

イ 少年院入院歴（表5）

回答者（回答総数831名）のうち、約13%（106名）が少年院への入院歴を有していた。回答者中、最多入院回数は3回であった。

表3 主な罪名(性別)

項目	合計	男子	女子
窃盗	171 (18.3)	97 (20.6)	74 (16.0)
強盗	63 (6.7)	53 (11.3)	10 (2.2)
傷害・傷害致死	31 (3.3)	22 (4.7)	9 (1.9)
住居侵入	6 (0.6)	2 (0.4)	4 (0.9)
恐喝	12 (1.3)	12 (2.5)	0 (0.0)
殺人	118 (12.6)	64 (13.6)	54 (11.7)
詐欺	60 (6.4)	21 (4.5)	39 (8.4)
横領・背任	10 (1.1)	6 (1.3)	4 (0.9)
強姦・強制わいせつ	28 (3.0)	28 (5.9)	0 (0.0)
放火	11 (1.2)	4 (0.8)	7 (1.5)
業過致死傷・重過失致死傷	21 (2.2)	19 (4.0)	2 (0.4)
銃刀法違反	8 (0.9)	7 (1.5)	1 (0.2)
覚せい剤違反	333 (35.7)	92 (19.5)	241 (52.1)
道交法違反	18 (1.9)	10 (2.1)	8 (1.7)
その他	44 (4.7)	34 (7.2)	10 (2.2)
合計	934 (100.0)	471 (100.0)	463 (100.0)

注1 ()内は、構成比である。

注2 未遂を含む。

表4 刑務所入所歴(性別)

項目	合計	男子	女子
1回	551 (56.6)	297 (59.6)	254 (53.5)
2回	137 (14.1)	46 (9.2)	91 (19.2)
3回	82 (8.4)	38 (7.6)	44 (9.3)
4回	57 (5.9)	31 (6.2)	26 (5.5)
5回	51 (5.2)	27 (5.4)	24 (5.1)
6~9回	75 (7.7)	45 (9.0)	30 (6.3)
10回以上	20 (2.0)	14 (2.8)	6 (1.2)
合計	973 (100.0)	498 (100.0)	475 (100.0)

注 ()内は、構成比である。

表5 少年院入院歴(性別)

項目	合計	男子	女子
なし	725 (87.2)	379 (86.1)	346 (88.5)
1回	73 (8.8)	41 (9.3)	32 (8.2)
2回	28 (3.4)	18 (4.1)	10 (2.6)
3回	5 (0.6)	2 (0.5)	3 (0.8)
合計	831 (100.0)	440 (100.0)	391 (100.0)

注 ()内は、構成比である。

ウ 少年鑑別所入所歴（表6）

回答者（回答総数849名）のうち、約23%（193名）が少年鑑別所に収容された経験を有していた。回答者中、最多入所回数は9回であった。

表6 少年鑑別所入所歴（性別）

項目	合計	男子	女子
なし	656 (77.3)	336 (75.0)	320 (79.8)
1回	103 (12.1)	57 (12.7)	46 (11.5)
2回	45 (5.3)	27 (6.0)	18 (4.5)
3回	26 (3.1)	16 (3.6)	10 (2.5)
4回	12 (1.4)	8 (1.8)	4 (1.0)
5回	2 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)
6～9回	5 (0.6)	3 (0.6)	2 (0.5)
合計	849 (100.0)	448 (100.0)	401 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

エ 各矯正施設入所（院）回数の相関について（表7）

各矯正施設の入所回数に関係があるかを確認するため、相関分析を行ったところ、少年鑑別所の入所回数と少年院の入院回数には強い正の相関（ $r = .746$, $p < .01$ ）が認められたが、少年鑑別所、少年院の入所（院）回数と刑務所の入所回数とは弱い正の相関（刑務所と鑑別所： $r = .137$, $p < .01$ ）（刑務所と少年院： $r = .186$, $p < .01$ ）しか認められなかった。

表7 各矯正施設入所（院）回数の相関

		刑務所歴	少年院歴	鑑別所歴
刑務所歴	Pearsonの相関係数	1	.186 (**)	.137 (**)
	N	973	831	849
少年院歴	Pearsonの相関係数	.186 (**)	1	.746 (**)
	N	831	831	831
鑑別所歴	Pearsonの相関係数	.137 (**)	.746 (**)	1
	N	849	831	849

注 **は、1%水準で有意であることを示す。

2 入所前と現在の生活について

(1) 刑務所に入る前に一緒に過ごしていた人（表8）

今回刑務所に入る前の1年間で、誰と一緒に過ごすことが多かったかについて、選択肢を7項目挙げ、択一回答を求めた。

その結果、「配偶者を含めた家族」と答えた者が最も多く（32.5%）、次いで「配偶者（内縁関係を含む夫・妻）」（22.8%）、「一人でいることが多かった」（15.7%）、「友

だち」(10.7%),「恋人」(10.4%)の順に多かった。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた($\chi^2(6) = 43.33$, $p < .01$)ため、残差分析を実施したところ、女子の方が男子より「配偶者を含めた家族」と答える者が、男子の方が女子より「友だち」,「職場の同僚・先輩」,「一人であることが多かった」と答える者の割合が有意に多かった(以下、集計結果についてカイ二乗検定を行い、有意差が認められた場合は同様に示す。)

表8 一緒に過ごす人(性別)

項目	合計	男子	女子	検定結果
配偶者(内縁関係を含む夫・妻)	213 (22.8)	105 (21.8)	108 (23.8)	$\chi^2(6) = 43.33$ $p < .01^{**}$
配偶者を含めた家族	304 (32.5)	130 (27.0)	174 (38.3)	
恋人	97 (10.4)	48 (10.0)	49 (10.8)	
友だち	100 (10.7)	70 (14.6)	30 (6.6)	
職場の同僚・先輩	33 (3.5)	25 (5.2)	8 (1.8)	
その他	41 (4.4)	13 (2.7)	28 (6.2)	
一人であることが多かった	147 (15.7)	90 (18.7)	57 (12.6)	
合計	935 (100.0)	481 (100.0)	454 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

(2) 入所前の生活で接していた周りの人

前回調査及びNHK放送文化研究所の調査(2005)を参考に、刑事施設入所前の当時に接していたと思われる人について9項目を設定し、各項目に対して「1 たくさんいた」、「2 いた」、「3 いなかった」の3件法で回答を求めた。結果は図1のとおりである。

「たくさんいた」と回答する者の割合が最も多かった項目は「あいさつをする人」で、約半数の回答者(51.8%)が答えている。

これに「いた」を含めると、「あいさつをする人」(計94.7%)や、「世間話をする人」(計91.5%)といった 社会的なレベルで接する人は、回答者の9割以上が「いた」とみなしているが、「親友と呼べる人」については回答者の約3割(30.6%)の者が、「悩みや不満を聞いてくれる人」については約2割(21.4%)の者が「いなかった」と回答している。

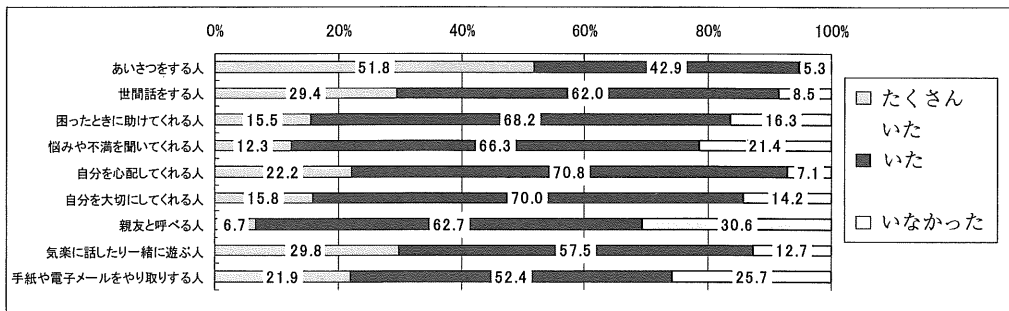


図1 入院前の生活で接していた周りの人構成比

(3) 生活の満足度

前回調査を参考に、刑事施設入所前の生活の満足度を計るため、「父」、「母」、「学校」、「友達」、「日常生活をしていた地域」、「世の中」の6つの質問項目に対して、「1 満足」、「2 やや満足」、「3 どちらともいえない」、「4 やや不満」、「5 不満」の5件法で回答を求めた。また、成人前後における各項目に対する態度の変化が認められるかどうかを把握するため、「20歳になる前」と「20歳になった後」と、それぞれの時代における満足度について回答を求めた（ただし、20歳になった後では対象項目を「学校」から「仕事」に変更している。）。

ア 20歳になる前の生活（図2）

「満足」と「やや満足」の割合の合計が一番大きかったのは「友だち」であった（計63.1%）。次いで、「地域」（計60.9%）、「母」（計59.6%）、「父」（計44.8%）、「学校」（計37.4%）、「世の中」（計32.8%）の順に満足したと回答している。

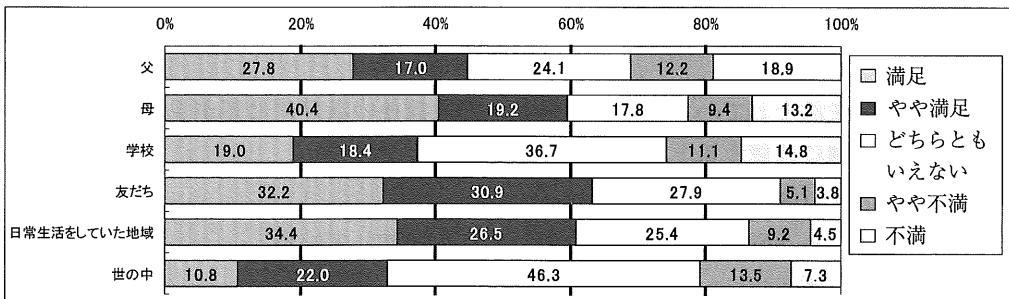


図2 満足度（20歳になる前の生活）

イ 20歳になった後の生活（図3）

「満足」と「やや満足」の割合の合計が一番大きかったのは「母」であった（計62.8%）。次いで、「地域」（計60.7%）、「友だち」（計59.8%）、「仕事」（計54.3%）、「父」（計49.8%）、「世の中」（計29.6%）の順に満足した割合が大きい。

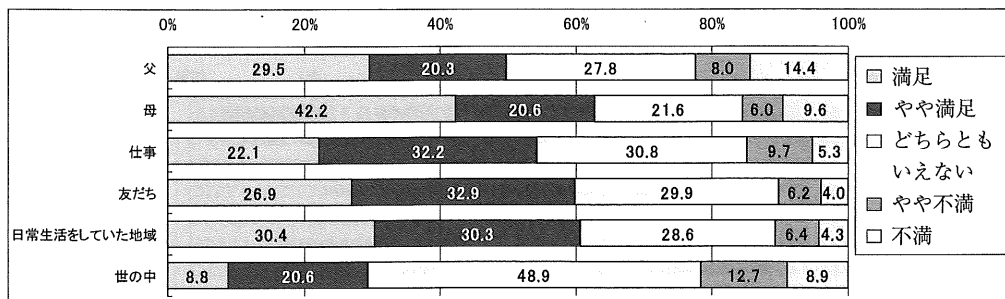


図3 満足度 (20歳になった後の生活)

ウ 20歳前後の生活満足度の変動について

20歳前後の生活満足度について比較検討するため、各項目得点について符号付き順位和検定を実施したところ、表9に示すとおりとなった。

その結果、「父」、「母」、「学校-仕事」については、20歳以前より以後の方が、生活満足度が増加している方向で有意差が認められた。一方、「友だち」、「世の中」については、20歳以前より以後の方が、満足度が減少している方向で有意差が認められた。(p<.01)

「日常生活をしていた地域」については、20歳前後の満足度に有意差は認められなかった。

表9 成人前後の生活満足度の符号付き順位和検定の検定結果

	20歳前「父」	20歳前「母」	20歳前「学校」	20歳前「友だち」	20歳前「地域」	20歳前「世の中」
	-	-	-	-	-	-
	20歳後「父」	20歳後「母」	20歳後「仕事」	20歳後「友だち」	20歳後「地域」	20歳後「世の中」
z	-6.377*1	-5.863*1	-8.729*1	-3.761*2	-.472*2	-3.027*2
p値	.000	.000	.000	.000	.637	.002

*1: 正の順位に基づく *2: 負の順位に基づく

「日常生活をしていた地域」以外の、20歳前後の満足度に差が見られた事項について、詳細に確認すると、以下のとおりになった。

(ア) 父 (図4)

「満足」と「やや満足」の割合がいずれも増加している。

(イ) 母 (図5)

「満足」と「やや満足」の割合がいずれも増加している。

(ウ) 学校と仕事 (図6)

「満足」と「やや満足」の割合がいずれも増加している。

(エ) 友だち (図7)

「満足」及び「やや満足」が減少し、「やや不満」及び「不満」の割合が微増している。

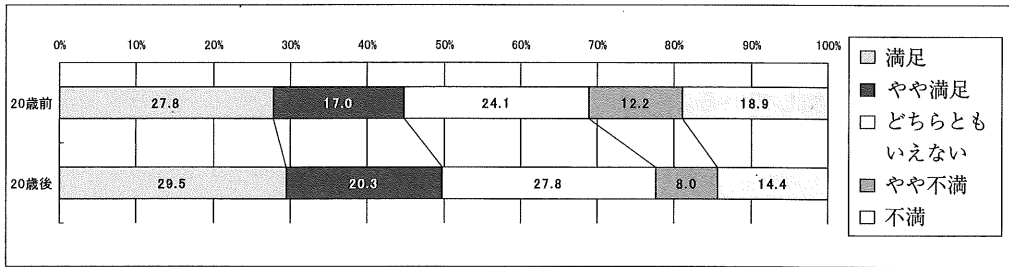


図4 「父」満足度の比較

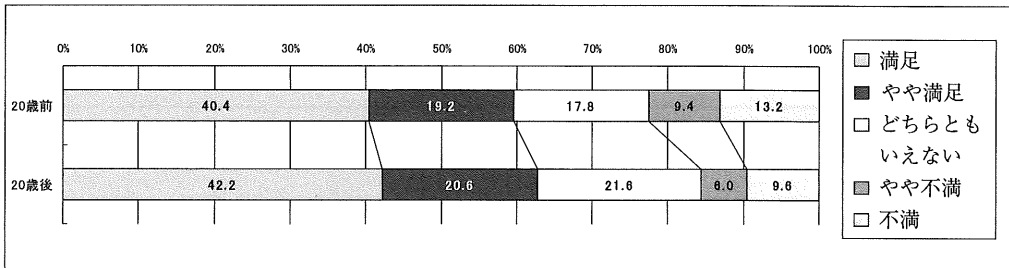


図5 「母」満足度の比較

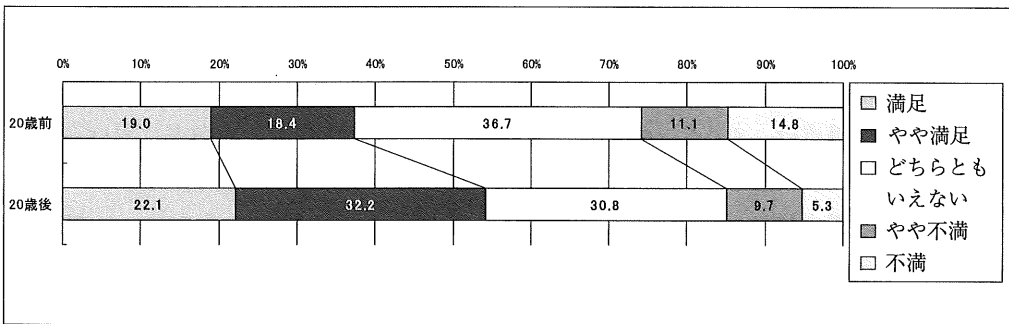


図6 「学校」と「仕事」の満足度の比較

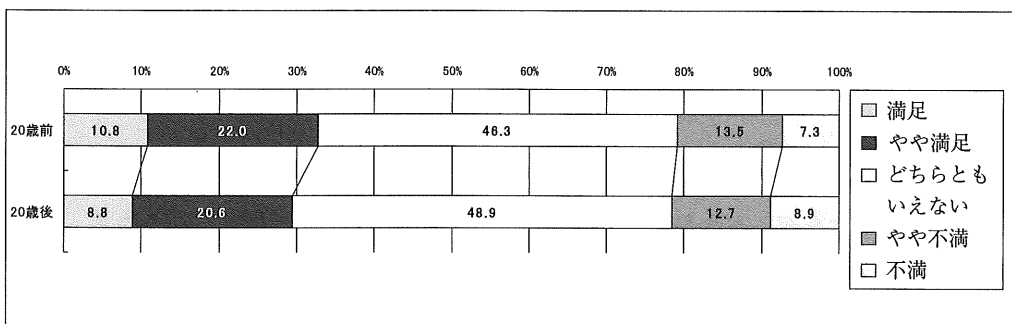


図7 「友だち」の満足度の比較

(オ) 世の中 (図8)

「満足」又は「やや満足」と答えた者の割合が微減しているとともに、「不満」の割合が増加している。

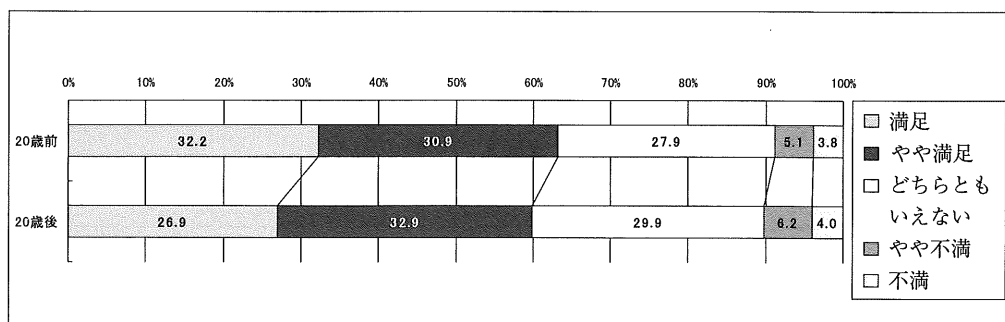


図8 「世の中」の満足度の比較

(4) 抑うつ尺度について

CES-Dによる結果は表10のとおりである。

CES-Dは、うつ病等の気分障害をスクリーニングする心理尺度であり、最低が0点、最高が60点である。16点を区分点とし、16点未満を「正常対照群」、16点以上を「気分障害群」としている。本調査における回答者の平均得点は、全体で14.6点（男子12.8点、女子16.7点）であった。「CES-D使用の手引き」（島，1998）（以下「CES-Dマニュアル」という。）によると、我が国の抑うつ傾向のない正常対照群のCES-Dの平均得点は、8.9点（男子10.0点、女子7.7点）であり、本調査における受刑者全体又は男女別のいずれにおいてもこれより大幅に高い値を示している。

受刑者の男女別によってCES-D得点に差があるかを検討するため、t検定を行ったところ、有意差が認められ（ $t = 6.47$, $df = 735.65$, $p < .01$ ）、女子の方が男子よりも有意に平均得点が高いという結果が得られた。

次に、犯罪傾向の進捗別で得点に差があるかを検討したが、CES-Dマニュアルによると、CES-D得点と年齢には弱い負の相関があるとされており、犯罪傾向の進捗によって平均年齢が異なる（A級：42.6歳、B級：45.1歳）ことから、年齢を共変量とした共分散分析を実施したところ、有意差は認められなかった（ $F = 2.56$, $n.s.$ ）。

3 仕事について

(1) 本件時の就労の有無 (表11)

今回の事件を起こした時に仕事をしていなかったか否かについて確認したところ、回答者中、約54%が仕事をしていたと答えた。男女別で回答比率に有意な連関は認められず、仕事をしていた者とそうでない者がおよそ二分された結果となった。

(2) 仕事をしていなかった理由 (表12)

表10 CES-D得点

		N	平均値	標準偏差
男子	A級	227	12.75	7.24
	B級	218	12.84	7.56
	合計	445	12.80	7.39
女子	A級	203	17.99	9.46
	B級	194	15.32	9.81
	合計	397	16.68	9.71
合計	A級	430	15.22	8.75
	B級	412	14.01	8.77
	合計	842	14.63	8.77

表11 本件時の就職の有無（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
仕事をしていた	520 (54.1)	279 (56.6)	241 (51.4)	$\chi^2(1) = 2.62$ n.s.
仕事をしていない	442 (45.9)	214 (43.4)	228 (48.6)	
合計	952 (100.0)	493 (100.0)	469 (100.0)	

注（ ）内は、構成比である。

前問で「仕事をしていない」と答えた者に、仕事をしていなかった理由について7項目の選択肢を設定し、択一回答を求めた。

その結果、最も多かった回答は「働かなくても生活できていた」(23.0%)であり、次いで、「体の具合が悪かった」(15.3%)、「望む仕事になかった」(15.1%)、「遊んでいた」(14.4%)、「働く意欲がわいてこなかった」(13.9%)、「仕事が切れていた」(6.5%)の順となった。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(6) = 49.40$, $p < .01$)

ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子より「仕事が切れていた」、「働く意欲がわいてこなかった」、「遊んでいた」と答える者が有意に多く、女子の方が男子より「体の具合が悪かった」、「働かなくても生活できていた」と答える者の割合が有意に多かった。

(3) 職業選択基準

調査日時点で、回答者に対し、仕事を選択する上でどの条件が一番重要であるかを確認するため、NHK放送文化研究所の調査(2005)の「理想の仕事像」に係る質問の12項目の選択肢を引用し、択一回答を求めたものである。結果は表13のとおりである。

表12 不就労の理由（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
望む仕事が無かった	63 (15.1)	35 (17.2)	28 (13.0)	$\chi^2(6) = 49.40$ $p < .01^{**}$
仕事が切れていた	27 (6.5)	19 (9.4)	8 (3.7)	
体の具合が悪かった	64 (15.3)	19 (9.4)	46 (20.9)	
働く意欲がわいてこなかった	58 (13.9)	38 (18.7)	20 (9.3)	
遊んでいた	60 (14.4)	42 (20.7)	18 (8.4)	
働かなくても生活できていた	96 (23.0)	27 (13.3)	69 (32.1)	
その他	50 (12.0)	23 (11.3)	27 (12.6)	
合計	418 (100.0)	203 (100.0)	215 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

最も多かった回答は、「仲間と楽しく働ける仕事」(16.4%)であり、次いで「高い収入が得られる仕事」(13.9%)、「できるものならなんでもいい」(13.2%)、「専門知識や特技が生かせる仕事」(12.4%)の順で多く答えられている。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(11) = 46.38, p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子より「独立して人に気兼ねなくやれる仕事」、「失業の心配がない仕事」、「責任者として実力を発揮できる仕事」と答える者が、女子の方が男子より「できるものならなんでもよい」、「わからない」と答える者の割合が有意に多かった。

4 本件事件について

(1) 本件事件の原因（表14）

受刑者本人が本件事件の原因をどうとらえているかを確認するため、「少年院を出院した少年に関する研究」（大川ら、1999）の少年院入院原因に関する質問項目を参考に、本件事件の原因として12項目の選択肢を設定し、択一回答を求めた。

その結果、最も多かった回答は「気分がゆるんでいた」(21.7%)であり、次いで「人に影響されたり、流されたりしやすい」(20.4%)、「お金が無かった」(15.8%)の順であり、この3項目で、全体の半数以上の回答を占めた。

表13 職業選択基準（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
働く時間が短い仕事	12 (1.4)	3 (0.7)	9 (2.2)	$\chi^2(11) = 46.38$ $p < .01^{**}$
失業の心配がない仕事	94 (10.9)	58 (12.9)	36 (8.7)	
健康を損なう心配がない仕事	49 (5.7)	28 (6.2)	21 (5.1)	
高い収入が得られる仕事	120 (13.9)	59 (13.1)	61 (14.8)	
仲間と楽しく働ける仕事	141 (16.4)	68 (15.1)	73 (17.7)	
責任者として実力を発揮できる仕事	55 (6.4)	36 (8.0)	19 (4.6)	
独立して人に気兼ねなくやれる仕事	95 (11.0)	67 (14.9)	28 (6.8)	
専門知識や特技が生かせる仕事	107 (12.4)	59 (13.1)	48 (11.7)	
世間からもてはやされる仕事	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
世の中のためになる仕事	43 (5.0)	19 (4.2)	24 (5.8)	
その他	23 (2.7)	12 (2.7)	11 (2.7)	
できるものならなんでもいい	114 (13.2)	40 (8.9)	74 (18.0)	
わからない	9 (1.0)	1 (0.2)	8 (1.9)	
合計	862 (100.0)	450 (100.0)	412 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(11) = 57.80$, $p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子より「お金がなかった」、「派手な生活をしたかった」、「すぐに怒ったり気分が変わりやすい」と回答する者が有意に多く、女子の方が男子より「周りの人や家族が自分に優しくしてくれなかった」、「人に影響されたり流されたりしやすい」と回答する者の割合が有意に多かった。

(2) 出所後の再犯に対する不安度

出所後の再犯に対する不安について、「不安がある」、「やや不安がある」、「あまり不安はない」「不安がある」の4件法で回答を求めた結果を男女ごとに示したものが図9である。

表14 本件事件原因 (性別)

項目	合計	男子	女子	検定結果
世の中の仕組みをよくわかっていなかった	31 (3.3)	15 (3.0)	16 (3.5)	$\chi^2(11) = 57.80$ $p < .01^{**}$
お金がなかった	150 (15.8)	100 (20.2)	50 (10.9)	
派手な生活をしたかった	47 (4.9)	31 (6.3)	16 (3.5)	
育った環境が悪かった	9 (0.9)	5 (1.0)	4 (0.9)	
周りの人や家族が自分に優しくしてくれなかった	10 (1.1)	1 (0.2)	9 (2.0)	
すぐに怒ったり気分が変わりやすい	47 (4.9)	31 (6.3)	16 (3.5)	
気分がゆるんでいた	207 (21.7)	115 (23.3)	92 (20.1)	
人に影響されたり、流されたりしやすい	194 (20.4)	65 (13.2)	129 (28.2)	
人に自慢したり、負けたくない気持ちがあった	40 (4.2)	25 (5.1)	15 (3.3)	
能力が足りなかった	49 (5.1)	24 (4.9)	25 (5.5)	
勤めていた会社や友達が悪かった	16 (1.7)	8 (1.6)	8 (1.7)	
その他	152 (16.0)	74 (15.0)	78 (17.0)	
合計	952 (100.0)	494 (100.0)	458 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

その結果、「不安はない」と答えた者が全体の半数以上を占めており(54.7%)、「あまり不安はない」を含めると、全体の7割以上の者(71.8%)が出所後の再犯について不安を有していないと答えた。

男女別において回答比率に有意な連関は認められなかった($\chi^2(3) = 6.34$, n.s.)が、犯罪傾向の進度別で比較すると、回答比率に有意差が認められたため($\chi^2(3) = 66.82$, $p < .01$)、残差分析を実施したところ、A級受刑者の方がB級受刑者よりも「不安はない」と回答する者が有意に多く、逆にB級受刑者の方がA級受刑者より「やや不安がある」、「不安がある」と回答する者の割合が有意に多かった(表15、図10)。

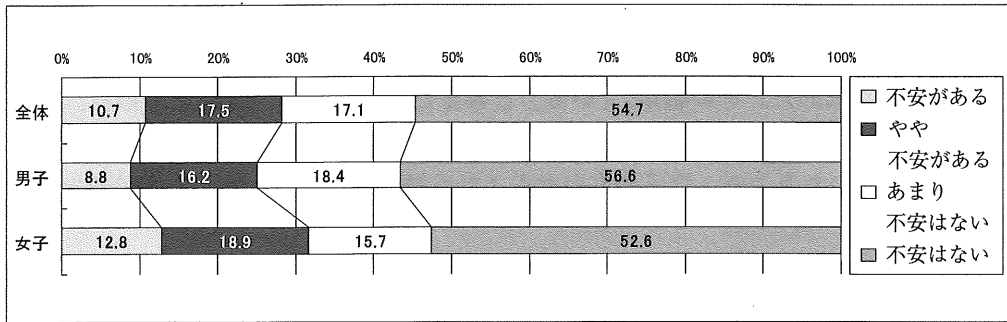


図9 出所後の再犯に対する不安度（性別）

表15 再犯の不安（犯罪傾向の進捗別）

項目	合計	A級	B級	検定結果
不安はない	534 (54.7)	324 (66.0)	210 (43.2)	$\chi^2(3) = 66.82$ $p < .01^{**}$
あまり不安はない	167 (17.1)	83 (16.9)	84 (17.3)	
やや不安がある	171 (17.5)	54 (11.0)	117 (24.1)	
不安がある	105 (10.7)	30 (6.1)	75 (15.4)	
合計	977 (100.0)	491 (100.0)	486 (100.0)	

注1 ()内は，構成比である。

注2 「検定結果」欄の，「*」は有意水準5%未満で，「**」は1%未満で，それぞれ有意であることを示す。

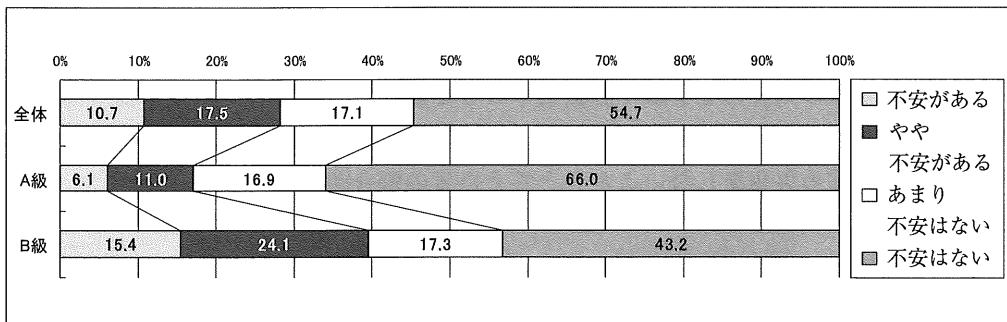


図10 出所後の再犯に対する不安度（犯罪傾向の進捗別）

(3) 被害者の有無 (表16)

前回調査と同様に、今回受刑することとなった事件に対して、被害者がいるかについて回答を求めた。その結果、「いる」と答えた者は全体の64.2%を占めた。男女別に比較すると回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(2) = 92.84$, $p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも被害者がいると答えた者の割合が有意に多かった。

表16 被害者の有無 (性別)

項目	合計	男子	女子	検定結果
いる	626 (64.2)	393 (78.6)	233 (49.1)	$\chi^2(2) = 92.84$ $p < .01^{**}$
いない	327 (33.5)	99 (19.8)	228 (48.0)	
わからない	22 (2.3)	8 (1.6)	14 (2.9)	
合計	975 (100.0)	500 (100.0)	475 (100.0)	

注1 () 内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

(4) しょく罪方法

前回調査では、本件時の被害者の有無に関わらず、「被害者がいるとした場合」を想定させ、被害者に対する責任の果たし方について質問しているが、本調査においては、被害者の有無を前提にせず、自らの罪を償うために何をすべきかについて質問した。9項目の選択肢を設定し、択一回答を求めたところ、表17の結果となった。

最も多かった回答は、「刑を務め、再犯をしないこと」であり、全体の約半数 (49.9%) を占めた。男女別で比較すると回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(8) = 39.11$, $p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも「被害者に自分の謝罪の気持ちを手紙や直接会うことを通して伝える」、「お金や物で弁償をし、刑を務める」「刑を務め、謝罪の気持ちを伝える」と答えた者が、女子の方が男子よりも「刑を務め再犯をしないこと」と答えた者の割合が有意に多かった。

5 受刑生活について

(1) 受刑生活中の情報収集方法

社会で起きている出来事を刑務所収容中の受刑者が知る方法は限られているが、主に何を媒体として情報を収集しているかについて、受刑者が取り得る方法を多岐選択として挙げ、あてはまるもの全てについて回答を求めた。選択項目の設定においてはNHK放送文化研究所の調査 (2005) の調査項目を参考にした。その結果を男女別に

表17 しょく罪方法（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
刑を務めること	73 (7.7)	41 (8.4)	32 (7.0)	$\chi^2(8) = 39.11$ $p < .01^{**}$
お金や物で弁償すること	9 (1.0)	6 (1.2)	3 (0.7)	
被害者に自分の謝罪の気持ちを手紙や直接会うことを通して伝えること	50 (5.3)	33 (6.7)	17 (3.7)	
お金や物で弁償をし、刑を務めること	28 (3.0)	20 (4.1)	8 (1.8)	
刑を務め、謝罪の気持ちを伝えること	121 (12.8)	79 (16.2)	42 (9.2)	
刑を務め、再犯をしないこと	472 (49.9)	201 (41.1)	271 (59.3)	
お金や物で弁償をして謝罪の気持ちを伝えること	27 (2.9)	17 (3.5)	10 (2.2)	
お金や物で弁償をし、再犯をしないこと	31 (3.3)	21 (4.3)	10 (2.2)	
謝罪し、再犯しないこと	135 (14.3)	71 (14.5)	64 (14.0)	
合計	946 (100.0)	489 (100.0)	457 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

示したものが図11である。

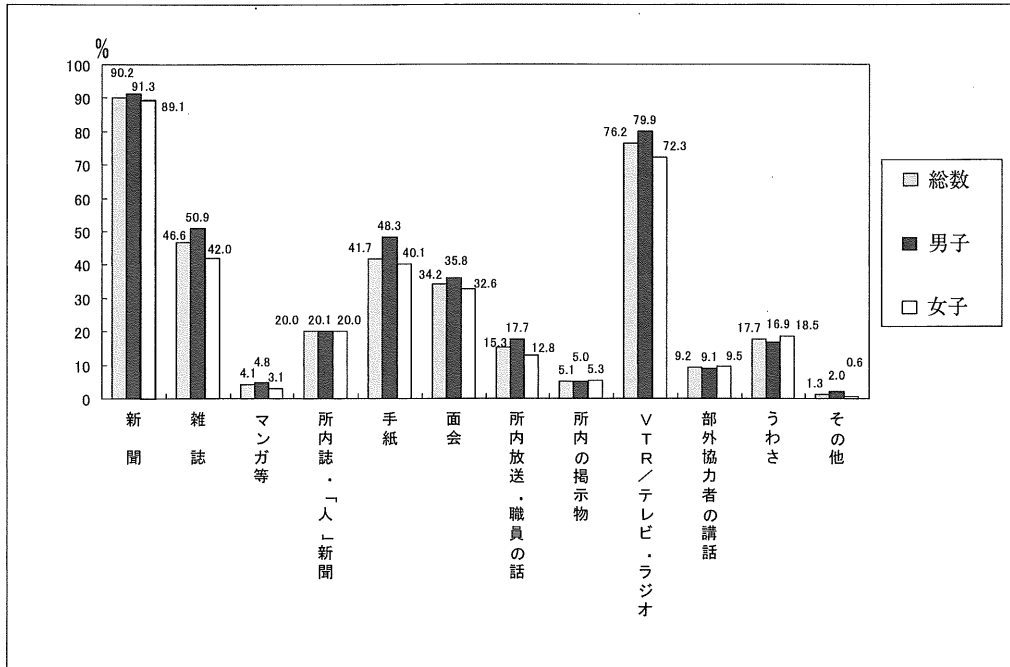
回答者の約9割(90.2%)が、主に社会の情報を収集する方法に「新聞」を挙げた。次いで「テレビ」(76.2%)、「雑誌」(46.6%)、「手紙」(41.7%)が多く挙げられている。また、男女別に見ても、ほとんど男女間の回答に差異がないことが見られる。

(2) 宗教教誨活動への興味関心

宗教教誨とは、刑事施設の長が「教誨師」として依頼した民間の篤志家である宗教家により、宗教を信仰する者や関心を持つ被収容者の希望に応じて行う精神的、倫理的、宗教的な教化を指す。わが国においては明治14年の監獄則から法制化され、現在ではキリスト教、仏教、神道等の各宗派団体が実施している。その教誨活動に対する興味関心について質問した結果を男女別に示したものが、図12である。

回答者の約半数(51.5%)が、「興味がある」と回答している。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた($\chi^2(3) = 7.92, p < .05$)ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子より「興味関心がない」と答えた者の割合が有意に多かった(表18)。



	合計		男子		女子	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
新聞	878	(90.2)	454	(91.3)	424	(89.1)
雑誌	453	(46.6)	253	(50.9)	200	(42.0)
マンガ等	40	(4.1)	24	(4.8)	16	(3.4)
所内誌・「人」新聞	195	(20.0)	100	(20.1)	95	(20.0)
手紙	406	(41.7)	215	(43.3)	191	(40.1)
面会	333	(34.2)	178	(35.8)	155	(32.6)
所内放送・職員の話	149	(15.3)	88	(17.7)	61	(12.8)
所内の掲示物	50	(5.1)	25	(5.0)	25	(5.3)
VTR/テレビ・ラジオ	741	(76.2)	397	(79.9)	344	(72.3)
部外協力者の講話	90	(9.2)	45	(9.1)	45	(9.5)
うわさ	172	(17.7)	84	(16.9)	88	(18.5)
その他	13	(1.3)	10	(2.0)	3	(0.6)
合計		3,520		1,873		1,647

注1 ()内は、比率である。

注2 重複選択である。

図11 受刑生活中的の情報収集方法 (性別)

(3) 篤志面接活動への興味関心

篤志面接活動とは、矯正施設の長からの推薦により、矯正管区長の委嘱を受けた民間の篤志家による、受刑者及び少年院在院者に対する面接活動を指す。昭和28年事務次官通達から全国的制度として確立し、現在、全国約2,000人の篤志面接委員が活動している。その篤志面接活動に対する興味関心について質問したところ、図13のとおりとなった。

回答者のうち、全体の46.2%が、「興味がある」と回答した。ただし、全体の27.5%が「わからない」と回答している。

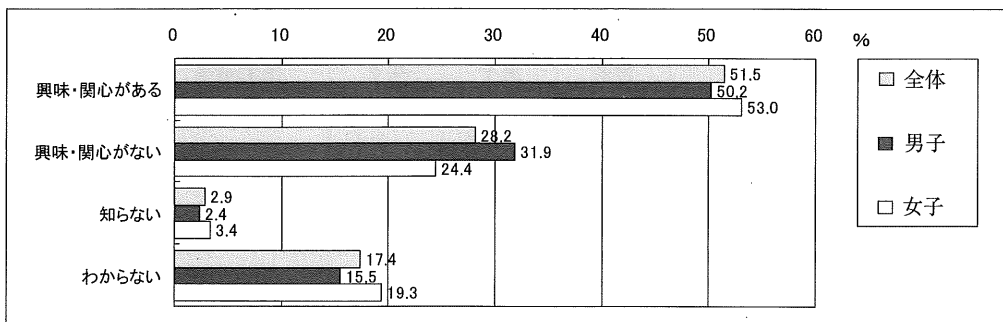


図12 宗教教誨活動に対する興味・関心（性別）

表18 宗教教誨への興味の有無（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
興味関心がある	499 (51.5)	249 (50.2)	250 (53.0)	$\chi^2(3) = 7.92$ $p < .05^*$
興味関心がない	273 (28.2)	158 (31.9)	115 (24.4)	
知らない	28 (2.9)	12 (2.4)	16 (3.4)	
わからない	168 (17.4)	77 (15.5)	91 (19.3)	
合計	968 (100.0)	496 (100.0)	472 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

男女別に比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(3) = 12.88, p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子より「興味・関心がない」と答えた者の割合が有意に多かった (表19)。

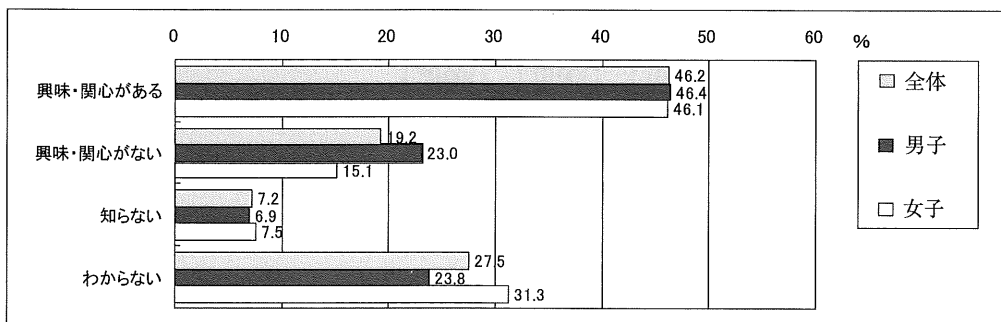


図13 篤志面接に対する関心（性別）

表19 篤志面接活動への興味の有無（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
興味関心がある	446 (46.2)	230 (46.4)	216 (46.1)	$\chi^2(3) = 12.88$ $p < .01^{**}$
興味関心がない	185 (19.2)	114 (23.0)	71 (15.1)	
知らない	69 (7.2)	34 (6.9)	35 (7.5)	
わからない	265 (27.5)	118 (23.8)	147 (31.3)	
合計	965 (100.0)	496 (100.0)	469 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

(4) 職業訓練について

ア 受講の有無（表20）

職業訓練とは受刑者に対し、職業に必要な知識及び技能を習得させ、又は向上させることを目的として実施する計画的・組織的な訓練を指し、平成15年における訓練修了者は延べ2,000人である。その職業訓練を、以前の受刑歴も含めて受講したことがあるかについて質問したところ、全回答者の79.0%が、「いいえ」と回答している。

また、男女別で回答比率に有意な連関は認められなかった。

表20 職業訓練受講の有無（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
はい	203 (21.0)	113 (22.8)	90 (19.1)	$\chi^2(1) = 1.92$ n.s.
いいえ	763 (79.0)	383 (77.2)	380 (80.9)	
合計	966 (100.0)	496 (100.0)	470 (100.0)	

注 ()内は、構成比である。

イ 職業訓練の受講希望（表21）

職業訓練を受けたいか否かについて質問したところ、回答者全体の81.5%が、「受けてみたい」と回答した。

また、男女別で回答比率に有意な連関は認められなかった。

表21 職業訓練の受講希望（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
受けてみたい	782 (81.5)	404 (81.6)	378 (81.3)	$\chi^2(1) = 0.02$ n.s.
受けたくない	178 (18.5)	91 (18.4)	87 (18.7)	
合計	960 (100.0)	495 (100.0)	465 (100.0)	

注（ ）内は、構成比である。

ウ 受講したい職業訓練種目（表22）

職業訓練の受講経験の有無に関係なく、機会があれば受けてみたい職業訓練種目について、9つの選択肢を設定し、択一回答を求めたところ、最も多かった回答は「コンピュータ関係」であり、全体の32.4%を占めた。その他に、「介護・福祉関係」（30.7%）や、「自動車関係」（10.1%）が多く回答された。

男女別の回答比率に有意差が認められた（ $\chi^2(8) = 153.36$, $p < .01$ ）ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも「木工」、「金属」、「建築」、「自動車」、「左官・土木関係」と答えた者が、女子の方が男子よりも「介護・福祉関係」と答えた者の割合が有意に多かった。

(5) 所内規律について

刑務所内の規律について、どのように感じているかを、「1 厳しい」、「2 やや厳しい」、「3 どちらともいえない」、「4 ややゆるい」、「5 ゆるい」の5件法で質問した。その結果を男女別に示したものが図14である。

「厳しい」と答えた者は、回答者全体の26.0%で、「やや厳しい」を含めると全体の約半数（合計50.4%）の者が所内規律は厳しいと感じている。

男女別で回答比率に有意な連関は認められず（ $\chi^2(4) = 6.80$, n.s.）、また、犯罪傾向の進度別においても回答比率に有意な連関は認められなかった（ $\chi^2(4) = 7.44$, n.s.）。

(6) 余暇時間の過ごし方

作業時間や行事時間を除いた時間（余暇時間）をどのように過ごすことが多いかについて、受刑者が取り得る項目を多岐選択として挙げ、あてはまるもの全てについて回答を求めた。選択項目の作成に当たっては、NHK放送文化研究所の調査（2005）における余暇の過ごし方に関する質問項目を参考にした。回答結果を男女別に示したものが図15である。

回答者（回答総数973名）の約3人に2人が、「手紙を書いたり、読んだり、文章を書いたりしている」（66.1%）を選択し、次いで、「週刊誌、漫画などの雑誌を読んでいる」（57.4%）、「新聞を読んでいる」（44.6%）の順で多く選択されている。

表22 受講したい職業訓練種目（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
木工関係	21 (2.3)	21 (4.4)	0 (0.0)	$\chi^2(8) = 153.36$ $p < .01^{**}$
金属関係	10 (1.1)	9 (1.9)	1 (0.2)	
建築関係	53 (5.8)	43 (9.0)	10 (2.3)	
電気関係	22 (2.4)	15 (3.2)	7 (1.6)	
自動車関係	92 (10.1)	75 (15.8)	17 (3.9)	
左官・土木関係	25 (2.7)	22 (4.6)	3 (0.7)	
コンピューター関係	295 (32.4)	153 (32.1)	142 (32.7)	
介護・福祉関係	279 (30.7)	79 (16.6)	200 (46.1)	
その他の訓練	113 (12.4)	59 (12.4)	54 (12.4)	
合計	910 (100.0)	476 (100.0)	434 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

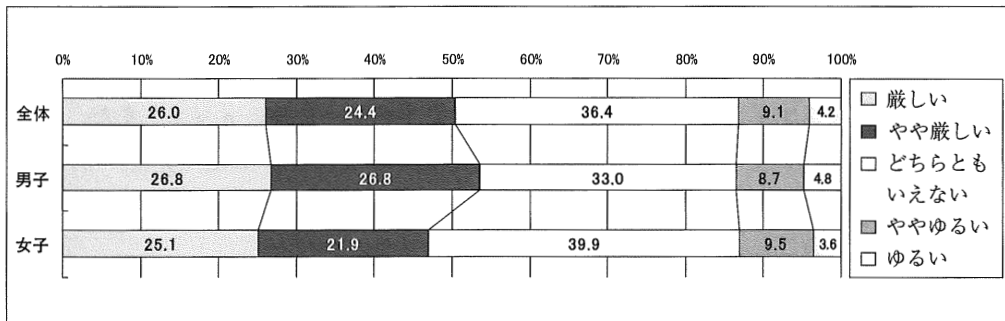
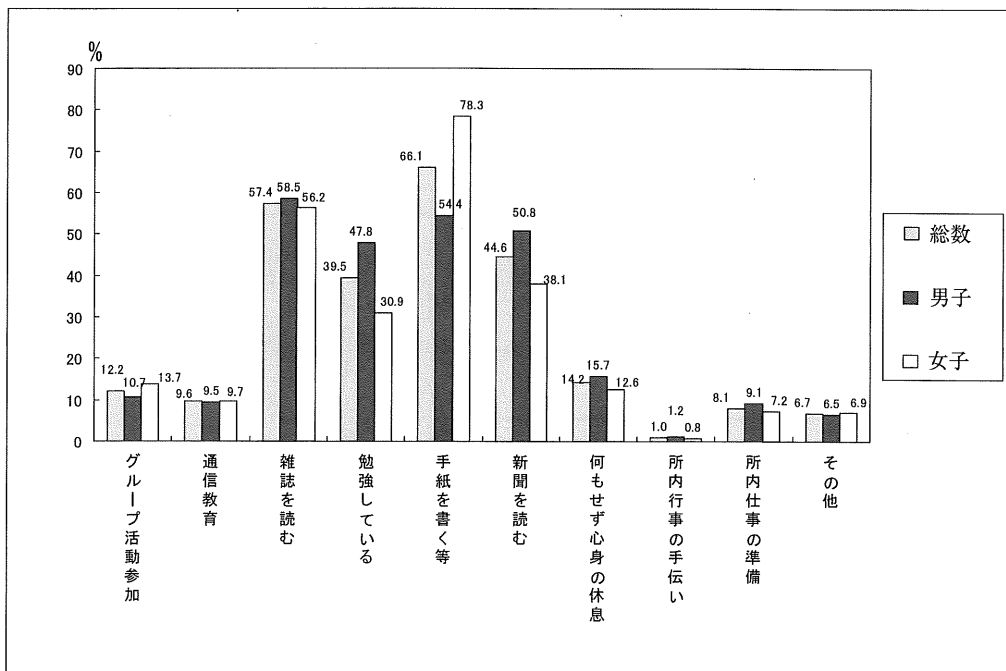


図14 所内規律について（性別）

男女別に見ると、男子は「週刊誌、漫画などの雑誌を読んでいる」（58.5%）が最も多く選択され、女子は、「手紙を書いたり、読んだり、文章を書いたりしている」（78.3%）が最も多く選択されている。

(7) 他の受刑者との関わり方（表23）



	合計		男子		女子	
グループ活動参加	118	(12.2)	53	(10.7)	65	(13.7)
通信教育	93	(9.6)	47	(9.5)	46	(9.7)
雑誌読み	557	(57.4)	290	(58.5)	267	(56.2)
勉強	384	(39.5)	237	(47.8)	147	(30.9)
手紙等	642	(66.1)	270	(54.4)	372	(78.3)
新聞読み	433	(44.6)	252	(50.8)	181	(38.1)
心身休息	138	(14.2)	78	(15.7)	60	(12.6)
行事手伝い	10	(1.0)	6	(1.2)	4	(0.8)
所内の仕事の準備	79	(8.1)	45	(9.1)	34	(7.2)
その他	65	(6.7)	32	(6.5)	33	(6.9)
合計	2,519		1,310		1,209	

注1 () 内は、比率である。

注2 重複選択である。

図15 余暇時間の過ごし方（性別）

他の受刑者との関わり方をどのようにしているかについて、5つの選択肢を設定して択一回答を求めた。

最も多かった回答は「顔見知り程度にかかわるようにしている」であり、全体の41.7%を占めた。また、「どんな人ともまんべんなく付き合っている」も全体の約3割(29.6%)を占めた。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(4) = 51.68, p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも「近くの受刑者とは親密にしている」と答えた者が、女子の方が男子よりも「関わりを避けている」と答えた者の割合が有意に多かった。

表23 他の受刑者との関わり方（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
顔見知り程度でかかわる	398 (41.7)	202 (41.6)	196 (41.9)	$\chi^2(4) = 51.68$ $p < .01^{**}$
近くの受刑者とは親密	99 (10.4)	72 (14.8)	27 (5.8)	
どんな人ともまんべんなく付き合っている	282 (29.6)	158 (32.5)	124 (26.5)	
かかわりを避けている	113 (11.8)	39 (8.0)	74 (15.8)	
わからない	62 (6.5)	15 (3.1)	47 (10.0)	
合計	954 (100.0)	486 (100.0)	468 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

(8) 受刑生活で一番ためになったこと（表24）

刑務所内の処遇内容等に関する10項目の選択肢のうち、一番自分にとってためになったと思われるものについて択一回答を求めた。

最も多かった回答は「施設の規則正しい生活」であり、全体の32.9%を占めた。次いで「刑務作業、職業訓練」(16.3%)、「面会・通信」(14.0%)の順で多く回答されている。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(9) = 24.39$, $p < .01$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも「被害者に関する教育」と答えた者が、女子の方が男子よりも「酒害、薬物、交通、暴力団に関する教育」、「刑務作業、職業訓練」と答えた者の割合が有意に多かった。

(9) 受刑生活で得たもの（表25）

受刑生活を通して得られたものについて、法務総合研究所研究部報告「刑務所に関する意識調査」(1997)の質問項目を参考に、9つの選択肢を設定し、一番あてはまるものについて択一選択するよう回答を求めた。

最も多かった回答は「家族の有り難さ」であり、全体の34.0%を占めた。次いで「再犯しない決意」(21.2%)、「忍耐力」(19.9%)と多く回答されている。

男女別で比較すると、回答比率に有意差が認められた ($\chi^2(8) = 17.95$, $p < .05$) ため、残差分析を実施したところ、男子の方が女子よりも「被害者に対する謝罪意識」と答えた者の割合が有意に多かった。

(10) 生活目標

刑務所内の生活を含めた、受刑者自身の生活全般の目標について、NHK放送文化

表24 受刑生活で一番ためになったこと（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
酒害，薬物，交通等に関する教育	86 (9.5)	34 (7.3)	52 (11.9)	$\chi^2(9) = 24.39$ $p < .01^{**}$
被害者に対する教育	69 (7.6)	45 (9.7)	24 (5.5)	
通信教育・教科教育	48 (5.3)	28 (6.0)	20 (4.6)	
刑務作業・職業訓練	147 (16.3)	61 (13.1)	86 (19.6)	
職員による面接・相談	37 (4.1)	19 (4.1)	18 (4.1)	
職員以外の部外者による面接・相談	4 (0.4)	1 (0.2)	3 (0.7)	
施設の規則正しい生活	297 (32.9)	163 (35.0)	134 (30.6)	
帰住先・引受人の調整	30 (3.3)	11 (2.4)	19 (4.3)	
面会・通信	127 (14.0)	68 (14.6)	59 (13.5)	
慰問・講演	59 (6.5)	36 (7.7)	23 (5.3)	
合計	904 (100.0)	466 (100.0)	438 (100.0)	

注1 ()内は，構成比である。

注2 「検定結果」欄の，「*」は有意水準5%未満で，「**」は1%未満で，それぞれ有意であることを示す。

研究所の調査（2005）の生活目標に係る6つの選択肢を引用し，択一回答を求めたところ，表26の結果となった。

最も多かった回答は「しっかり計画を立てて，豊かな生活を築く」であり，全体の58.9%を占めた。「身近な人たちと，なごやかな毎日を過ごす」（22.8%）を含めると，当該2項目だけで全体の8割以上の回答（計81.7%）を占めた。

男女別で比較すると，回答比率に有意差が認められた（ $\chi^2(5) = 15.01$ ， $p < .05$ ）ため，残差分析を実施したところ，男子の方が女子よりも「その日その日を自由楽しく過ごす」と答えた者が有意に多かった。

表25 受刑生活で得たもの（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
忍耐力がついた	181 (19.9)	90 (19.0)	91 (20.8)	$\chi^2(8) = 17.95$ $p < .05^*$
家族の有り難さがわかった	309 (34.0)	152 (32.1)	157 (35.9)	
人との付き合い方を学んだ	87 (9.6)	50 (10.6)	37 (8.5)	
再犯しない決意ができた	193 (21.2)	96 (20.3)	97 (22.2)	
被害者に対する謝罪意識が生まれた	29 (3.2)	22 (4.7)	7 (1.6)	
健康になった	42 (4.5)	23 (4.9)	19 (4.3)	
働く習慣が身についた	45 (4.9)	21 (4.4)	24 (5.5)	
その他	10 (1.1)	9 (1.9)	1 (0.2)	
特になし	14 (1.5)	10 (2.1)	4 (0.9)	
合計	910 (100.0)	473 (100.0)	437 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

表26 生活目標（性別）

項目	合計	男子	女子	検定結果
その日その日を自由楽しく過ごす	34 (3.6)	28 (5.7)	6 (1.3)	$\chi^2(5) = 15.01$ $p < .05^*$
しっかり計画を立てて豊かな生活を築く	554 (58.9)	284 (58.1)	270 (59.7)	
身近な人たちとなごやかな毎日を過ごす	215 (22.8)	107 (21.9)	108 (23.9)	
みんなと力を合わせて世の中を良くする	45 (4.8)	26 (5.3)	19 (4.2)	
その他	60 (6.4)	30 (6.1)	30 (6.6)	
わからない	33 (3.5)	14 (2.9)	19 (4.2)	
合計	941 (100.0)	489 (100.0)	452 (100.0)	

注1 ()内は、構成比である。

注2 「検定結果」欄の、「*」は有意水準5%未満で、「**」は1%未満で、それぞれ有意であることを示す。

VI 考察

1 入所前と現在の生活について

本調査の結果、刑務所に入所する前に、回答者の6割弱が「配偶者」又は「配偶者を含めた家族」と共に住んでおり、親和的なつながりを持てる者と住んでいることが多い。ただし、自分の周囲を取り巻く人々については、あいさつや世間話のようなコミュニケーション方法がとれる者は多くいたと感じているものの、親密な関係となる親友や自分の悩みや不満を聞いてくれる人は少ないと感じているという結果が得られた。

20歳を境とする生活や周囲の人々に対する満足度は、母については他の項目に比して相対的に満足していると回答する割合が大きかった。また、父母については20歳前よりも20歳後の方が、満足した又はやや満足したと回答した割合が大きく、成人以降になって親のありがたさを強く感じる傾向が認められた。友人や世の中については20歳前よりも20歳以降の方が、満足した、又はやや満足したと回答した割合が下がっている。日常生活をしてきた地域に対する満足度は20歳前後で有意差が認められなかった。

刑務所内における生活下での受刑者の心的状態を、「抑うつ度」という観点から把握するため、心理尺度であるCES-Dを実施した結果、男女ともにCES-Dマニュアルにおける正常対照群の平均値よりも高い数値が認められた。特に、女子については男子よりも有意に得点が高く、平均点は16.7点で、CES-Dにおける気分障害群の区分点とされる16点を超えている。しかし、CES-Dはあくまでスクリーニングテストであり、同結果をもって大半の受刑者（特に女子受刑者）が抑うつ傾向であるとの見解や、刑務所生活が受刑者を抑うつ傾向にさせる等と一概に結論付けることはできない。

ただし、時間・空間的に厳しい自由制限のある刑務所において、被収容者が「拘禁反応」⁶として気分変調を含む神経症・心身症を発症する場合があります。うつ状態を呈して自殺念慮や自殺企図を見せる者もいる（林ほか、2001）ため、刑事施設の保安上あるいは受刑者の人権上という観点から、本結果を踏まえた上で、例えば、矯正施設における臨床場面において、CES-D等といったテストを活用し、受刑者のうつ状態や心因性疾患等の早期発見及び早期治療がなされることを期待したい。

2 仕事について

仕事に関する質問では、今回の事件を起こした際、男女共に半数以上の者が就労をしていたと回答したが、仕事をしていなかった者については、約4人に1人が「仕事をせずとも生活できた」と答えている。仕事の選択基準は「職場の人間と楽しく働ける場所」と

⁶ 拘禁を契機として起こされた心因反応を指す（福島、1984）。上記症状のほかに、詐病、原始反応、反応性もうろう状態、幻覚・好訴妄想等が見られる場合がある。

回答した者が一番多く、「高い収入が得られる仕事」より上位を占め、これについては同じ質問項目で構成されているNHK放送文化研究所の調査（2005）の結果と一致している。女子は男子よりも「できるものならなんでもよい」と答えた者が有意に多かったが、常勤雇いの割合が男子の方が女子よりも高く、臨時雇い・日雇いの割合は逆に女子の方が多いという総務省統計局による労働力調査（2005）の結果も踏まえると、女子にとって、社会における雇用はいまだ不安定であるという意識があると推察される。

3 本件事件について

本件事件の原因については「気分がゆるんでいた」、「人に流されやすい」、「お金がない」という回答が全体の多くを占めており、再犯に対しても約半数以上の者が「不安はない」と答え、犯罪原因をその時の状況や外的要因に依拠する回答が多い。また、犯罪傾向が進んでいるB級受刑者の方がA級受刑者より再犯に対して不安がある者が有意に多い。これについては、B級受刑者は累犯者も多いことから、再犯回避の自信のなさから生じているものと考えられる。

被害者の有無については回答者の約3人に2人は被害者はいると答えており、男子の方が女子よりも有意に多い。この質問で性差が生じた理由は、本調査における男子回答者が、「窃盗」、「殺人」といった、明らかに被害者のいる犯罪をした者の割合が高かったこと、女子回答者においては半数以上の者が「覚せい剤取締法違反」であり、同罪者の多くが「被害者不在」と回答したためと推察される（資料16-2参照）。

また、罪の償い方については女子より男子の方が「被害者に自分の謝罪の気持ちを手紙や直接会うことを通して伝えること」、「お金や物で弁償をし、刑を務めること」、「刑を務め、謝罪の気持ちを伝えること」など、被害者を想定した償い方を回答したものが有意に多い。

4 受刑生活について

社会情勢については、受刑者のほとんどが新聞やテレビ、ラジオ、雑誌などの媒体を通じて情報を収集しており、外部交通手段である手紙や面会を活用している場合も多い。この結果については特に男女差は認められなかった。

宗教教誨や篤志面接についてはいずれも回答者の約半数の者が「興味・関心がある」と答えている。ただし、女子より男子の方が「興味・関心がない」と回答した者が有意に多かった。

職業訓練については選択基準があるため、受講希望者の全てが受講できるわけではなく、回答者の8割近くは受講経験がないと回答している。しかし、回答者の8割以上の者が職業訓練を受講したいと希望していることから、職業訓練が受刑者にとって興味深いものであることが予想される。また、受講したい職業訓練科目で一番多かった回答はコンピューター関係であり、男女とも約3割の者が受講したいと回答している。

所内規律については回答者の約半数が厳しい又はやや厳しいと感じており、この結果について、男女に有意差は認められなかった。

所内における余暇時間の過ごし方については、回答者の約3人に2人が外部交通手段である「手紙」の読み書きを行っており、次いで「雑誌購読」や「新聞を読む」といった割合が大きく、受刑者のほとんどが社会情勢の情報収集や外部関係者との接触のために余暇を費やしていることがわかる。

他の受刑者との関わり方については、4割以上の者が「顔見知り程度」で関わるようにすると回答しているが、男子は女子より「近くの受刑者とは親密にする」と回答した者が有意に多く、逆に女子は男子より「かかわりを避けている」と回答した者が有意に多かった。その理由として、友人関係について男子は共行動を、女子は相互依存と自己開示といった情緒的なものを求めるという性差が認められ（和田，1996）、受刑生活における他の被収容者との親和的關係が、男子にとっては比較的容易に構築できるものの、女子にとっては作りにくく、かえって拒否的傾向になるためではないかと推察される。

受刑生活で一番ためになったことは回答者の約3人に1人が「施設の規則正しい生活」を選択している。次いで「刑務作業・職業訓練」、「面会・通信」の順である。

この中で、刑務所内における受刑者の犯罪性に応じた教育（酒害、薬物、交通等に関する教育）を挙げている数が多くないが、これについては、刑務所の人的・物的な制約もあり、所内における同教育の受講対象者がそもそも少数であるためと考えられる。新法施行に伴って、受刑者の犯罪問題性に応じた教育が重点的に課せられることになったことから、今後の調査結果を注目したい。

受刑生活から得たものとして、回答者の約3人に1人が「家族の有り難さ」と回答しており、調査者の多くが入所前に配偶者を含む家族等と一緒にあった状況を考えれば当然の結果であろう。また、男子の方が女子よりも「被害者に対する謝罪意識が生まれた」と答えた者が有意に多かったものの、本調査では、男子のほうが女子より主犯として被害者のいる犯罪（殺人、窃盗など）の割合が大きいことから、一概に、謝罪意識が女子より高いと結論付けることはできない。

受刑生活を含めた生活目標については、回答者の約8割の者が「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」又は「身近な人たちと、なごやかな毎日を過ごす」ことを目標としており、前向きな姿勢がうかがえる。ただし、男子の方が女子よりも「その日その日を自由に楽しく過ごす」とせつな的な回答をする者が有意に多い。

VII おわりに

本調査は、被収容者に係る基礎的情報を包括的かつ継続的に収集し、当該資料を現場施設が情報として常時活用できることを意図として立ち上げられたものである。そのため、収容生活に密接に関係ある領域（生活満足度、被収容生活意識など）や、処遇する上で基

礎資料となる領域（被収容者の家族意識，社会満足度，犯罪意識など）について幅広く回答を求め，各々の結果を時系列で検証していくことに本調査の意義がある。

受刑者に関する本調査においては，新法改正前の調査であることから，次回調査の実施の際は，受刑生活内に係る質問の回答結果に変化が生じてくることが予想される。例えば，新法では，面会及び信書の発受等の外部交通，電話等による通信，宗教上の行為，余暇活動等といった，受刑者の権利自由に関する規定が，旧法より自由度を拡張されていることから，調査項目の「情報収集手段」や「余暇の過ごし方」等については，本調査結果と異なってくるものが予想される。

また，新法施行に伴い，受刑者分類制度が一新され，受刑者処遇の個別化が図られることとなり，懲役のほかに「犯罪性に応じた教育」を実施することが重要視されるようになった。そのため，調査項目の「犯罪に対する意識」や「しよく罪方法」，「受刑生活で得られたもの」，「受刑生活でためになったこと」などの設問については，継続調査の結果，今回の調査の結果とは異なってくるものが予想される。

以上のとおり，本研究を継続することで，旧法から新法への移行による受刑者への処遇効果の変動や，その影響が数的データとして抽出されることを期待したい。

最後に，本調査の実施に当たり，調査に御協力を賜った法務省矯正局をはじめ，調査対象となりました刑務所の各位に，心からの謝意を表します。

引用文献

- NHK放送文化研究所 2004 現代日本人の意識構造（第6版） NHKブックス
- 大川力・長谷川宜志・湖上康幸・茂木善次郎・門本泉 1999 少年院を出院した少年に関する研究（その1） 中央研究所紀要第9号，58，57-66
- 鴨下守孝・松本良枝編 2006 矯正用語事典 東京法令出版，64，191，254
- 島 悟・鹿野達男・北村俊則・浅井昌弘 1985 新しい抑うつ性自己評価尺度について 精神医学27，717-723
- 島 悟 1998 CES-D使用の手引き 千葉テストセンター
- 総務省統計局 2005 労働力調査（平成17年）概要 <http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index.pdf>（平成18年10月1日現在）
- 林 幸司・古賀幸博・松野敏行・藤丸靖明 2001 司法精神医学研究～精神鑑定と矯正医療～ 新興医学出版社
- 福島章 1984 犯罪心理学研究Ⅱ 金剛出版
- 法務総合研究所 1997 刑務所に関する意識調査 法務総合研究所研究部報告，55，1-77
- 和田実 1996 同性への友人関係期待と年齢・性・性役割同一性との関連 心理学研究67，232-237

資料1 基礎集計（最終学歴）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
中学卒業	549 (56.9)	111 (44.8)	122 (50.6)	151 (60.4)	165 (69.6)
高校卒業	262 (26.8)	81 (32.7)	81 (33.6)	59 (23.6)	41 (17.3)
高等専門学校卒業	31 (3.2)	7 (2.8)	9 (3.7)	6 (2.4)	9 (3.8)
高校卒業後，各種専門学校を卒業	44 (4.5)	17 (6.9)	16 (6.6)	5 (2.0)	6 (2.5)
短大卒業	7 (0.7)	2 (0.8)	3 (1.2)	0 (0.0)	2 (0.8)
大学卒業又はそれ以上	33 (3.4)	23 (9.3)	3 (1.2)	6 (2.4)	1 (0.4)
その他	50 (5.1)	7 (2.8)	7 (2.9)	23 (9.2)	13 (5.5)
合計	976 (100.0)	248 (100.0)	241 (100.0)	250 (100.0)	237 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料2 基礎集計（言い渡し刑期）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
1年以下	28 (2.9)	4 (1.6)	8 (3.3)	11 (4.4)	5 (2.1)
2年以下	194 (19.9)	27 (10.8)	39 (16.3)	48 (19.2)	80 (33.8)
3年以下	291 (29.8)	43 (17.3)	71 (29.6)	80 (32.0)	97 (40.9)
5年以下	212 (21.7)	55 (22.1)	59 (24.6)	57 (22.8)	41 (17.3)
5年を超える	251 (25.7)	120 (48.2)	63 (26.3)	54 (21.6)	14 (5.9)
合計	976 (100.0)	249 (100.0)	240 (100.0)	250 (100.0)	237 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料3 基礎集計（罪名）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
窃盗	171 (18.3)	32 (13.6)	25 (10.7)	65 (27.7)	49 (21.4)
強盗	63 (6.7)	40 (16.9)	7 (3.0)	13 (5.5)	3 (1.3)
傷害・傷害致死	31 (3.3)	8 (3.4)	8 (3.4)	14 (6.0)	1 (0.4)
住居侵入	6 (0.6)	1 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	3 (1.3)
恐喝	12 (1.3)	8 (3.4)	0 (0.0)	4 (1.7)	0 (0.0)
殺人	118 (12.6)	50 (21.2)	49 (20.9)	14 (6.0)	5 (2.2)
詐欺	60 (6.4)	12 (5.1)	22 (9.4)	9 (3.8)	17 (7.4)
横領・背任	10 (1.1)	4 (1.7)	4 (1.7)	2 (0.9)	0 (0.0)
強姦・強制わいせつ	28 (3.0)	20 (8.5)	0 (0.0)	8 (3.4)	0 (0.0)
放火	11 (1.2)	4 (1.7)	7 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
業務上過失致死傷・重過失致死傷	21 (2.2)	17 (7.2)	2 (0.9)	2 (0.9)	0 (0.0)
銃刀法違反	8 (0.9)	4 (1.7)	1 (0.4)	3 (1.3)	0 (0.0)
覚せい剤法違反	333 (35.7)	16 (6.8)	93 (39.7)	76 (32.3)	148 (64.6)
道路交通法違反	18 (1.9)	4 (1.7)	7 (3.0)	6 (2.6)	1 (0.4)
(1から4以外の) その他の罪	44 (4.7)	16 (6.8)	8 (3.4)	18 (7.7)	2 (0.9)
合計	934 (100.0)	236 (100.0)	234 (100.0)	235 (100.0)	229 (100.0)

注1 () 内は、構成比である。

資料4 基礎集計（刑務所入所歴）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
1回	551 (56.6)	239 (95.6)	234 (97.1)	58 (23.2)	20 (8.3)
2回	137 (14.1)	8 (8.0)	2 (0.8)	38 (15.2)	89 (37.1)
3回	82 (8.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	38 (15.2)	44 (18.3)
4回	57 (5.9)	1 (0.4)	0 (0.0)	30 (12.0)	26 (10.8)
5回	51 (5.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (10.8)	24 (10.0)
6～9回	75 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (18.0)	30 (12.5)
10回以上	20 (2.0)	2 (0.8)	5 (2.1)	14 (5.6)	7 (2.9)
合計	973 (100.0)	250 (100.0)	241 (100.0)	250 (100.0)	240 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

資料5 基礎集計（少年院入所歴）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
なし	725 (87.2)	182 (93.3)	150 (93.8)	197 (80.4)	196 (84.8)
1回	73 (8.8)	12 (6.2)	9 (5.6)	29 (11.8)	23 (10.0)
2回	28 (3.4)	1 (0.5)	1 (0.6)	17 (6.9)	9 (3.9)
3回	5 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.8)	3 (1.3)
合計	831 (100.0)	195 (100.0)	160 (100.0)	245 (100.0)	231 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

資料6 基礎集計（少年鑑別所入所歴）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
なし	656 (77.3)	163 (82.3)	139 (85.8)	173 (69.2)	181 (75.7)
1回	103 (12.1)	20 (10.1)	15 (9.3)	37 (14.8)	31 (13.0)
2回	45 (5.3)	9 (4.5)	7 (4.3)	18 (7.2)	11 (4.6)
3回	26 (3.1)	2 (1.0)	1 (0.6)	14 (5.6)	9 (3.8)
4回	12 (1.4)	3 (1.5)	0 (0.0)	5 (2.0)	4 (1.7)
5回	2 (0.2)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)
6～9回	5 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.2)	2 (0.8)
合計	849 (100.0)	198 (100.0)	162 (100.0)	250 (100.0)	239 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料7 基礎資料（一緒に過ごす人）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
配偶者（内縁関係を含む夫・妻）	213 (22.8)	39 (16.4)	45 (19.5)	66 (27.2)	63 (28.3)
配偶者を含めた家族	304 (32.5)	76 (31.9)	99 (42.9)	54 (22.2)	75 (33.6)
恋人	97 (10.4)	26 (10.9)	26 (11.3)	22 (9.1)	23 (10.3)
友だち	100 (10.7)	33 (13.9)	15 (6.5)	37 (15.2)	15 (6.7)
職場の同僚・先輩	33 (3.5)	14 (5.9)	2 (0.9)	11 (4.5)	6 (2.7)
その他	41 (4.4)	7 (2.9)	16 (6.9)	6 (2.5)	12 (5.4)
一人でいることが多かった	147 (15.7)	43 (18.1)	28 (12.1)	47 (19.3)	29 (13.0)
合計	935 (100.0)	238 (100.0)	231 (100.0)	243 (100.0)	223 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料8 基礎集計（入前前の生活で接していた周りの人）

8-1 あいさつをする人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	491 (51.8)	142 (58.4)	123 (52.8)	121 (48.8)	105 (46.9)
いた	407 (42.9)	88 (36.2)	100 (43.0)	118 (47.6)	101 (45.1)
いなかった	50 (5.3)	13 (5.3)	10 (4.3)	9 (3.6)	18 (8.0)
合計	948 (100.0)	243 (100.0)	233 (100.0)	248 (100.0)	224 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-2 世話をする人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	276 (29.4)	95 (39.7)	67 (29.0)	66 (26.9)	48 (21.5)
いた	582 (62.0)	126 (52.7)	146 (63.2)	162 (66.1)	148 (66.4)
いなかった	80 (8.5)	18 (7.5)	18 (7.8)	17 (6.9)	27 (12.1)
合計	938 (100.0)	239 (100.0)	231 (100.0)	245 (100.0)	223 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-3 困ったときに助けてくれる人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	146 (15.5)	39 (16.2)	41 (17.8)	40 (16.3)	26 (11.6)
いた	641 (68.2)	169 (70.1)	153 (66.5)	159 (64.9)	160 (71.4)
いなかった	153 (16.3)	33 (13.7)	36 (15.7)	46 (18.8)	38 (17.0)
合計	940 (100.0)	241 (100.0)	230 (100.0)	245 (100.0)	224 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-4 悩みや不満を聞いてくれる人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	116 (12.3)	31 (13.0)	36 (15.5)	23 (9.4)	26 (11.5)
いた	624 (66.3)	162 (67.8)	152 (65.5)	155 (63.5)	155 (68.6)
いなかった	201 (21.4)	46 (19.2)	44 (19.0)	66 (27.0)	45 (19.9)
合計	941 (100.0)	239 (100.0)	232 (100.0)	244 (100.0)	226 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-5 自分を心配してくれる人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	210 (22.2)	55 (22.8)	58 (24.9)	49 (20.0)	40 (17.8)
いた	671 (70.8)	173 (71.8)	166 (71.2)	169 (69.0)	163 (71.2)
いなかった	67 (7.1)	13 (5.4)	9 (3.9)	27 (11.0)	18 (7.9)
合計	948 (100.0)	241 (100.0)	233 (100.0)	245 (100.0)	229 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-6 自分を大切にしてくれる人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	149 (15.8)	37 (15.4)	41 (17.7)	31 (12.7)	40 (17.8)
いた	659 (70.0)	172 (71.7)	172 (74.1)	163 (66.5)	152 (67.6)
いなかった	134 (14.2)	31 (12.9)	19 (8.2)	51 (20.8)	33 (14.7)
合計	942 (100.0)	240 (100.0)	232 (100.0)	245 (100.0)	225 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-7 親友と呼べる人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	63 (6.7)	18 (7.5)	13 (5.7)	17 (6.9)	15 (6.7)
いた	591 (62.7)	174 (72.2)	140 (60.9)	158 (64.2)	119 (52.9)
いなかった	288 (30.6)	49 (20.3)	77 (33.5)	71 (28.9)	91 (40.4)
合計	942 (100.0)	241 (100.0)	230 (100.0)	246 (100.0)	225 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-8 気軽に話したり、一緒に遊ぶ人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	281 (29.8)	92 (37.9)	62 (26.5)	75 (30.5)	52 (23.5)
いた	543 (57.5)	127 (52.3)	137 (58.5)	143 (58.1)	136 (61.5)
いなかった	120 (12.7)	24 (9.9)	35 (15.0)	28 (11.4)	33 (14.9)
合計	944 (100.0)	243 (100.0)	234 (100.0)	246 (100.0)	221 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

8-9 手紙や電子メールをやり取りする人

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
たくさんいた	206 (21.9)	49 (20.4)	70 (30.0)	44 (17.9)	43 (19.4)
いた	493 (52.4)	117 (48.8)	123 (52.8)	123 (50.0)	130 (58.6)
いなかった	242 (25.7)	74 (30.8)	40 (17.2)	79 (32.1)	49 (22.1)
合計	941 (100.0)	240 (100.0)	233 (100.0)	246 (100.0)	222 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料9 基礎集計（生活の満足度（20歳になる前））

9-1 父

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	265 (27.8)	77 (31.7)	61 (26.2)	71 (29.2)	56 (23.9)
やや満足	162 (17.0)	45 (18.5)	53 (22.7)	33 (13.6)	31 (13.2)
どちらとも いえない	230 (24.1)	53 (21.8)	54 (23.2)	61 (25.1)	62 (26.5)
やや不満	116 (12.2)	29 (11.9)	24 (10.3)	32 (13.2)	31 (13.2)
不満	180 (18.9)	39 (16.0)	41 (17.6)	46 (18.9)	54 (23.1)
合計	953 (100.0)	243 (100.0)	233 (100.0)	243 (100.0)	234 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

9-2 母

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	389 (40.4)	117 (47.4)	82 (34.3)	110 (44.7)	80 (34.5)
やや満足	185 (19.2)	57 (23.1)	46 (19.2)	41 (16.7)	41 (17.7)
どちらとも いえない	172 (17.8)	40 (16.2)	42 (17.6)	48 (19.5)	42 (18.1)
やや不満	91 (9.4)	16 (6.5)	35 (14.6)	18 (7.3)	22 (9.5)
不満	127 (13.2)	17 (6.9)	34 (14.2)	29 (11.8)	47 (20.3)
合計	964 (100.0)	247 (100.0)	239 (100.0)	246 (100.0)	232 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

9-3 学校

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	184 (19.0)	64 (25.6)	44 (18.4)	37 (15.1)	39 (16.6)
やや満足	178 (18.4)	49 (19.6)	46 (19.2)	50 (20.4)	33 (14.0)
どちらとも いえない	356 (36.7)	79 (31.6)	91 (38.1)	94 (38.4)	92 (39.1)
やや不満	108 (11.1)	22 (8.8)	31 (13.0)	35 (14.3)	20 (8.5)
不満	143 (14.8)	36 (14.4)	27 (11.3)	29 (11.8)	51 (21.7)
合計	969 (100.0)	250 (100.0)	239 (100.0)	245 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

9-4 友だち

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	313 (32.2)	104 (41.6)	78 (32.5)	81 (32.9)	50 (21.3)
やや満足	300 (30.9)	85 (34.0)	77 (32.1)	76 (30.9)	62 (26.4)
どちらとも いえない	271 (27.9)	46 (18.4)	64 (26.7)	71 (28.9)	90 (38.3)
やや不満	50 (5.1)	8 (3.2)	13 (5.4)	13 (5.3)	16 (6.8)
不満	37 (3.8)	7 (2.8)	8 (3.3)	5 (2.0)	17 (7.2)
合計	971 (100.0)	250 (100.0)	240 (100.0)	246 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

9-5 日常生活をしていた地域

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	335 (34.4)	95 (38.2)	76 (31.7)	90 (36.4)	74 (31.1)
やや満足	258 (26.5)	85 (34.1)	71 (29.6)	61 (24.7)	41 (17.2)
どちらとも いえない	247 (25.4)	38 (15.3)	59 (24.6)	65 (26.3)	85 (35.7)
やや不満	90 (9.2)	25 (10.0)	21 (8.8)	18 (7.3)	26 (10.9)
不満	44 (4.5)	6 (2.4)	13 (5.4)	13 (5.3)	12 (5.0)
合計	974 (100.0)	249 (100.0)	240 (100.0)	247 (100.0)	238 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

9-6 世の中

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	105 (10.8)	39 (15.6)	24 (10.1)	22 (8.9)	20 (8.5)
やや満足	214 (22.0)	75 (30.0)	57 (23.9)	46 (18.6)	36 (15.3)
どちらとも いえない	450 (46.3)	87 (34.8)	108 (45.4)	124 (50.2)	131 (55.5)
やや不満	131 (13.5)	31 (12.4)	33 (13.9)	35 (14.2)	32 (13.6)
不満	71 (7.3)	18 (7.2)	16 (6.7)	20 (8.1)	17 (7.2)
合計	971 (100.0)	250 (100.0)	238 (100.0)	247 (100.0)	236 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料10 基礎集計 (生活の満足度 (20歳になった後))

10-1 父

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	277 (29.5)	85 (35.6)	64 (28.1)	67 (27.8)	61 (26.4)
やや満足	191 (20.3)	54 (22.6)	59 (25.9)	43 (17.8)	35 (15.2)
どちらとも いえない	261 (27.8)	58 (24.3)	59 (25.9)	74 (30.7)	70 (30.3)
やや不満	75 (8.0)	18 (7.5)	15 (6.6)	20 (8.3)	22 (9.5)
不満	135 (14.4)	24 (10.0)	31 (13.6)	37 (15.4)	43 (18.6)
合計	939 (100.0)	239 (100.0)	228 (100.0)	241 (100.0)	231 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

10-2 母

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	400 (42.2)	120 (49.4)	88 (37.3)	110 (45.6)	82 (36.0)
やや満足	195 (20.6)	56 (23.0)	55 (23.3)	39 (16.2)	45 (19.7)
どちらとも いえない	205 (21.6)	49 (20.2)	49 (20.8)	58 (24.1)	49 (21.5)
やや不満	57 (6.0)	10 (4.1)	20 (8.5)	12 (5.0)	15 (6.6)
不満	91 (9.6)	8 (3.3)	24 (10.2)	22 (9.1)	37 (16.2)
合計	948 (100.0)	243 (100.0)	236 (100.0)	241 (100.0)	228 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

10-3 仕事

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	214 (22.1)	68 (27.3)	61 (25.5)	37 (15.1)	48 (20.3)
やや満足	312 (32.2)	87 (34.9)	80 (33.5)	75 (30.6)	70 (29.5)
どちらとも いえない	299 (30.8)	59 (23.7)	59 (24.7)	93 (38.0)	88 (37.1)
やや不満	94 (9.7)	26 (10.4)	29 (12.1)	23 (9.4)	16 (6.8)
不満	51 (5.3)	9 (3.6)	10 (4.2)	17 (6.9)	15 (6.3)
合計	970 (100.0)	249 (100.0)	239 (100.0)	245 (100.0)	237 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

10-4 友だち

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	260 (26.9)	97 (38.8)	62 (25.9)	54 (22.2)	47 (20.1)
やや満足	318 (32.9)	86 (34.4)	85 (35.6)	79 (32.5)	68 (29.1)
どちらとも いえない	289 (29.9)	53 (21.2)	67 (28.0)	82 (33.7)	87 (37.2)
やや不満	60 (6.2)	9 (3.6)	15 (6.3)	17 (7.0)	19 (8.1)
不満	39 (4.0)	5 (2.0)	10 (4.2)	11 (4.5)	13 (5.6)
合計	966 (100.0)	250 (100.0)	239 (100.0)	243 (100.0)	234 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

10-5 日常生活をしていた地域

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	295 (30.4)	94 (37.8)	66 (27.4)	71 (28.9)	64 (27.4)
やや満足	294 (30.3)	85 (34.1)	84 (34.9)	75 (30.5)	50 (21.4)
どちらとも いえない	277 (28.6)	53 (21.3)	69 (28.6)	73 (29.7)	82 (35.0)
やや不満	62 (6.4)	11 (4.4)	13 (5.4)	15 (6.1)	23 (9.8)
不満	42 (4.3)	6 (2.4)	9 (3.7)	12 (4.9)	15 (6.4)
合計	970 (100.0)	249 (100.0)	241 (100.0)	246 (100.0)	234 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

10-6 世の中

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
満足	86 (8.8)	37 (14.8)	19 (7.9)	21 (8.5)	9 (3.8)
やや満足	201 (20.6)	63 (25.2)	53 (22.0)	43 (17.5)	42 (17.7)
どちらとも いえない	476 (48.9)	106 (42.4)	122 (50.6)	120 (48.8)	128 (54.0)
やや不満	124 (12.7)	26 (10.4)	29 (12.0)	39 (15.9)	30 (12.7)
不満	87 (8.9)	18 (7.2)	18 (7.5)	23 (9.3)	28 (11.8)
合計	974 (100.0)	250 (100.0)	241 (100.0)	246 (100.0)	237 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

資料11 基礎集計（本件時の就職の有無）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
仕事をしていた	520 (54.1)	158 (64.0)	131 (54.8)	121 (49.2)	110 (47.8)
仕事をしていない	442 (45.9)	89 (36.0)	108 (45.2)	125 (50.8)	120 (52.2)
合計	952 (100.0)	247 (100.0)	239 (100.0)	246 (100.0)	230 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料12 基礎資料（不就労の理由）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
働きたかったが、望む仕事なかった	63 (15.1)	15 (17.4)	11 (10.8)	20 (17.1)	17 (15.0)
働きたかったが、仕事が切れていた	27 (6.5)	8 (9.3)	4 (3.9)	11 (9.4)	4 (3.5)
働きたかったが、体の具合が悪かった	64 (15.3)	8 (9.3)	24 (23.5)	11 (9.4)	21 (18.6)
働く気持ちがわいてこなかった	58 (13.9)	14 (16.3)	7 (6.9)	24 (20.5)	13 (11.5)
遊んでいた	60 (14.4)	17 (19.8)	11 (10.8)	25 (21.4)	7 (6.2)
働かなくても、生活ができていた	96 (23.0)	9 (10.5)	32 (31.4)	18 (15.4)	37 (32.7)
その他	50 (12.0)	15 (17.4)	13 (12.7)	8 (6.8)	14 (12.4)
合計	418 (100.0)	86 (100.0)	102 (100.0)	117 (100.0)	113 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料13 基礎集計（職業選択基準）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
働く時間が短い仕事	12 (1.4)	1 (0.4)	5 (2.4)	2 (0.9)	4 (2.0)
失業の心配がない仕事	94 (10.9)	27 (11.5)	14 (6.8)	31 (14.4)	22 (10.7)
健康を損なう心配がない仕事	49 (5.7)	17 (7.2)	14 (6.8)	11 (5.1)	7 (3.4)
高い収入が得られる仕事	120 (13.9)	28 (11.9)	30 (14.5)	31 (14.4)	31 (15.1)
仲間と楽しく働ける仕事	141 (16.4)	39 (16.6)	38 (18.4)	29 (13.5)	35 (17.1)
責任者として実力を発揮できる仕事	55 (6.4)	19 (8.1)	12 (5.8)	17 (7.9)	7 (3.4)
独立して人に気兼ねなくやれる仕事	95 (11.0)	30 (12.8)	12 (5.8)	37 (17.2)	16 (7.8)
専門知識や特技が生かせる仕事	107 (12.4)	35 (14.9)	31 (15.0)	24 (11.2)	17 (8.3)
世間からもてはやされる仕事	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
世の中のためになる仕事	43 (5.0)	14 (6.0)	11 (5.3)	5 (2.3)	13 (6.3)
その他	23 (2.7)	9 (3.8)	5 (2.4)	3 (1.4)	6 (2.9)
できるものならなんでもいい	114 (13.2)	15 (6.4)	31 (15.0)	25 (11.6)	43 (21.0)
わからない	9 (1.0)	1 (0.4)	4 (1.9)	0 (0.0)	4 (2.0)
合計	862 (100.0)	235 (100.0)	207 (100.0)	215 (100.0)	205 (100.0)

注 ()内は、構成比である。

資料14 基礎集計（本件事件の原因）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
世の中の仕組みをよくわかっていなかった	31 (3.3)	13 (5.2)	9 (3.8)	2 (0.8)	7 (3.2)
お金がなかった	150 (15.8)	49 (19.7)	26 (11.0)	51 (20.8)	24 (10.8)
派手な生活をしたかった	47 (4.9)	12 (4.8)	5 (2.1)	19 (7.8)	11 (5.0)
育った環境が悪かった	9 (0.9)	5 (2.0)	3 (1.3)	0 (0.0)	1 (0.5)
周りの人や家族が自分に優しくしてくれなかった	10 (1.1)	0 (0.0)	5 (2.1)	1 (0.4)	4 (1.8)
すぐに怒ったり、気分が変わりやすい	47 (4.9)	19 (7.6)	9 (3.8)	12 (4.9)	7 (3.2)
気分がゆるんでいた	207 (21.7)	56 (22.5)	38 (16.1)	59 (24.1)	54 (24.3)
人に影響されたり、流されたりしやすい	194 (20.4)	27 (10.8)	64 (27.1)	38 (15.5)	65 (29.3)
人に自慢したり、負けたくない気持ちがあった	40 (4.2)	15 (6.0)	8 (3.4)	10 (4.1)	7 (3.2)
能力が足りなかった	49 (5.1)	11 (4.4)	12 (5.1)	13 (5.3)	13 (5.9)
勤めていた会社や友達が悪かった	16 (1.7)	6 (2.4)	5 (2.1)	2 (0.8)	3 (1.4)
その他	152 (16.0)	36 (14.5)	52 (22.0)	38 (15.5)	26 (11.7)
合計	952 (100.0)	249 (100.0)	236 (100.0)	245 (100.0)	222 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料15 基礎集計（出所後の再犯に対する不安度）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
不安はない	534 (54.7)	167 (66.8)	157 (65.1)	116 (46.4)	94 (39.8)
あまり不安はない	167 (17.1)	46 (18.4)	37 (15.4)	46 (18.4)	38 (16.1)
やや不安がある	171 (17.5)	26 (10.4)	28 (11.6)	55 (22.0)	62 (26.3)
不安がある	105 (10.7)	11 (4.4)	19 (7.9)	33 (13.2)	42 (17.8)
合計	977 (100.0)	250 (100.0)	241 (100.0)	250 (100.0)	236 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料16 基礎集計（被害者の有無）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
いる	626 (64.2)	212 (84.8)	134 (56.1)	181 (72.4)	99 (41.9)
いない	327 (33.5)	36 (14.4)	97 (40.6)	63 (25.2)	131 (55.5)
わからない	22 (2.3)	2 (0.8)	8 (3.3)	6 (2.4)	6 (2.5)
合計	975 (100.0)	250 (100.0)	239 (100.0)	250 (100.0)	236 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料16-2 被害者の有無（罪名・性別）

項目	合計	男子				女子			
		いる	いない	わからない	合計	いる	いない	わからない	合計
窃盗	169 (18.2)	87 (18.5)	9 (1.9)	1 (0.2)	97 (20.6)	46 (10.0)	24 (5.2)	2 (0.4)	72 (15.7)
強盗	63 (6.8)	51 (10.8)	1 (0.2)	1 (0.2)	53 (11.3)	9 (2.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	10 (2.2)
傷害・傷害致死	31 (3.3)	21 (4.5)	1 (0.2)	0 (0.0)	22 (4.7)	9 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (2.0)
住居侵入	6 (0.6)	2 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.4)	3 (0.7)	0 (0.0)	1 (0.2)	4 (0.9)
恐喝	12 (1.3)	11 (2.3)	1 (0.2)	0 (0.0)	12 (2.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
殺人	117 (12.6)	58 (12.3)	5 (1.1)	1 (0.2)	64 (13.6)	46 (10.0)	6 (1.3)	1 (0.2)	53 (11.5)
詐欺	59 (6.3)	19 (4.0)	2 (0.4)	0 (0.0)	21 (4.5)	35 (7.7)	2 (0.4)	1 (0.2)	38 (8.3)
横領・背任	10 (1.1)	6 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (1.3)	4 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.9)
強姦・強制わいせつ	28 (3.0)	27 (5.7)	1 (0.2)	0 (0.0)	28 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
放火	11 (1.2)	4 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (0.8)	6 (1.3)	1 (0.2)	0 (0.0)	7 (1.5)
業務上過失致死傷・重過失致死傷	21 (2.3)	18 (3.8)	1 (0.2)	0 (0.0)	19 (4.0)	2 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.4)
銃刀法違反	8 (0.9)	4 (0.8)	2 (0.4)	1 (0.2)	7 (1.5)	0 (0.0)	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.2)
覚せい剤法違反	333 (35.8)	30 (6.4)	60 (12.7)	2 (0.4)	92 (19.5)	51 (11.1)	181 (39.4)	9 (2.0)	241 (52.5)
道路交通法違反	18 (1.9)	4 (0.8)	5 (1.1)	1 (0.2)	10 (2.1)	4 (0.9)	4 (0.9)	0 (0.0)	8 (1.7)
その他	44 (4.7)	24 (5.1)	9 (1.9)	1 (0.2)	34 (7.2)	4 (0.9)	6 (1.3)	0 (0.0)	10 (2.2)
合計	930 (100.0)	366 (77.7)	97 (20.6)	8 (1.7)	471 (100.0)	219 (47.7)	226 (49.2)	14 (3.1)	459 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料17 基礎集計（しょく罪方法）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
刑を務めること	73 (7.7)	10 (4.0)	16 (6.9)	31 (12.8)	16 (7.1)
お金や物で弁償すること	9 (1.0)	3 (1.2)	1 (0.4)	3 (1.2)	2 (0.9)
被害者に自分の謝罪の気持ちを手紙や直接会うことを通して伝えること	50 (5.3)	23 (9.3)	12 (5.2)	10 (4.1)	5 (2.2)
お金や物で弁償をし、刑を務めること	28 (3.0)	10 (4.0)	3 (1.3)	10 (4.1)	5 (2.2)
刑を務め、謝罪の気持ちを伝えること	121 (12.8)	58 (23.5)	34 (14.6)	21 (8.7)	8 (3.6)
刑を務め、再犯をしないこと	472 (49.9)	77 (31.2)	117 (50.2)	124 (51.2)	154 (68.8)
お金や物で弁償をして謝罪の気持ちを伝えること	27 (2.9)	15 (6.1)	10 (4.3)	2 (0.8)	0 (0.0)
お金や物で弁償をし、再犯をしないこと	31 (3.3)	9 (3.6)	6 (2.6)	12 (5.0)	4 (1.8)
謝罪し、再犯しないこと	135 (14.3)	42 (17.0)	34 (14.6)	29 (12.0)	30 (13.4)
合計	946 (100.0)	247 (100.0)	233 (100.0)	242 (100.0)	224 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

資料18 基礎集計（受刑生活中の情報収集方法）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
新聞	878 (90.2)	228 (91.9)	221 (92.9)	226 (90.8)	203 (85.3)
雑誌（マンガを除く）	453 (46.6)	128 (51.6)	109 (45.8)	125 (50.2)	91 (38.2)
マンガ等	40 (4.1)	16 (6.5)	6 (2.5)	8 (3.2)	10 (4.2)
所内誌（紙）・「人」新聞	195 (20.0)	63 (25.4)	63 (26.5)	37 (14.9)	32 (13.4)
手紙	406 (41.7)	118 (47.6)	106 (44.5)	97 (39.0)	85 (35.7)
面会	333 (34.2)	98 (39.5)	87 (36.6)	80 (32.1)	68 (28.6)
所内放送・職員の話	149 (15.3)	47 (19.0)	30 (12.6)	41 (16.5)	31 (13.0)
所内の掲示物	50 (5.1)	15 (6.0)	13 (5.5)	10 (4.0)	12 (5.0)
VTR/テレビ・ラジオ	741 (76.2)	202 (81.5)	181 (76.1)	195 (78.3)	163 (68.5)
部外協力者（民間人）の講話	90 (9.2)	28 (11.3)	25 (10.5)	17 (6.8)	20 (8.4)
うわさ	172 (17.7)	40 (16.1)	43 (18.1)	44 (17.7)	45 (18.9)
その他	13 (1.3)	6 (2.4)	0 (0.0)	4 (1.6)	3 (1.3)
合計	3,520 (100.0)	989 (100.0)	884 (100.0)	884 (100.0)	763 (100.0)

注1 （ ）内は、構成比である。

注2 重複選択である。

資料19 基礎集計（宗教教誨への興味の有無）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
興味・関心がある	499 (51.5)	131 (53.3)	147 (62.0)	118 (47.2)	103 (43.8)
興味・関心がない	273 (28.2)	70 (28.5)	38 (16.0)	88 (35.2)	77 (32.8)
知らない	28 (2.9)	9 (3.7)	4 (1.7)	3 (1.2)	12 (5.1)
わからない	168 (17.4)	36 (14.6)	48 (20.3)	41 (16.4)	43 (18.3)
合計	968 (100.0)	246 (100.0)	237 (100.0)	250 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料20 基礎集計（篤志面接活動への興味の有無）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
興味・関心がある	446 (46.2)	121 (49.0)	114 (48.5)	109 (43.8)	102 (43.6)
興味・関心がない	185 (19.2)	42 (17.0)	21 (8.9)	72 (28.9)	50 (21.4)
知らない	69 (7.2)	23 (9.3)	17 (7.2)	11 (4.4)	18 (7.7)
わからない	265 (27.5)	61 (24.7)	83 (35.3)	57 (22.9)	64 (27.4)
合計	965 (100.0)	247 (100.0)	235 (100.0)	249 (100.0)	234 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料21 基礎集計（職業訓練受講の有無）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
はい	203 (21.0)	48 (19.4)	33 (14.0)	65 (26.1)	57 (24.3)
いいえ	763 (79.0)	199 (80.6)	202 (86.0)	184 (73.9)	178 (75.7)
合計	966 (100.0)	247 (100.0)	235 (100.0)	249 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料22 基礎集計（職業訓練の受講希望）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
受けてみたい	782 (81.5)	206 (83.7)	187 (81.3)	198 (79.5)	191 (81.3)
受けたくない	178 (18.5)	40 (16.3)	43 (18.7)	51 (20.5)	44 (18.7)
合計	960 (100.0)	246 (100.0)	230 (100.0)	249 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料23 基礎集計（受講したい職業訓練種目）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
木工関係	21 (2.3)	16 (6.6)	0 (0.0)	5 (2.1)	0 (0.0)
金属関係	10 (1.1)	3 (1.2)	1 (0.5)	6 (2.6)	0 (0.0)
建築関係	53 (5.8)	21 (8.7)	5 (2.3)	22 (9.4)	5 (2.3)
電気関係	22 (2.4)	10 (4.1)	3 (1.4)	5 (2.1)	4 (1.9)
自動車関係	92 (10.1)	35 (14.5)	7 (3.2)	40 (17.1)	10 (4.6)
左官・土木関係	25 (2.7)	11 (4.5)	0 (0.0)	11 (4.7)	3 (1.4)
コンピュータ関係	295 (32.4)	71 (29.3)	79 (36.2)	82 (35.0)	63 (29.2)
介護・福祉関係	279 (30.7)	41 (16.9)	92 (42.2)	38 (16.2)	108 (50.0)
その他の訓練	113 (12.4)	34 (14.0)	31 (14.2)	25 (10.7)	23 (10.6)
合計	910 (100.0)	242 (100.0)	218 (100.0)	234 (100.0)	216 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料24 基礎集計（所内規律）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
厳しい	252 (26.0)	63 (25.4)	65 (27.2)	70 (28.1)	54 (23.0)
やや厳しい	237 (24.4)	71 (28.6)	62 (25.9)	62 (24.9)	42 (17.9)
どちらともいえない	353 (36.4)	83 (33.5)	87 (36.4)	81 (32.5)	102 (43.4)
ややゆるい	88 (9.1)	22 (8.9)	19 (7.9)	21 (8.4)	26 (11.1)
ゆるい	41 (4.2)	9 (3.6)	6 (2.5)	15 (6.0)	11 (4.7)
合計	971 (100.0)	248 (100.0)	239 (100.0)	249 (100.0)	235 (100.0)

注（ ）内は、構成比である。

資料25 基礎集計（余暇の過ごし方）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
短歌、碁、コーラスなどグループでの活動に参加している	118 (12.2)	28 (11.3)	39 (16.4)	25 (10.1)	26 (11.0)
資格を取るために、通信教育の勉強をしている	93 (9.6)	27 (10.9)	27 (11.3)	20 (8.1)	19 (8.0)
週刊誌、漫画などの雑誌を読んでいる	557 (57.4)	135 (54.4)	130 (54.6)	155 (62.5)	137 (57.8)
文学書、専門書などを読んだり、勉強をしている	384 (39.5)	132 (53.2)	82 (34.5)	105 (42.3)	65 (27.4)
手紙を書いたり、読んだり、文章を書いたりしている	642 (66.1)	146 (58.9)	188 (79.0)	124 (50.0)	184 (77.6)
新聞を読んでいる	433 (44.6)	131 (52.8)	101 (42.4)	121 (48.8)	80 (33.8)
これといったことはしないで、心身を休ませている	138 (14.2)	40 (16.1)	30 (12.6)	38 (15.3)	30 (12.7)
所内行事の手伝いの準備をしている	10 (1.0)	4 (1.6)	1 (0.4)	2 (0.8)	3 (1.3)
所内の自分に与えられた仕事について、準備をしている	79 (8.1)	30 (12.1)	15 (6.3)	15 (6.0)	19 (8.0)
その他	65 (6.7)	13 (5.2)	15 (6.3)	19 (7.7)	18 (7.6)
合計	2,519 (100.0)	686 (100.0)	628 (100.0)	624 (100.0)	581 (100.0)

注1（ ）内は、構成比である。

注2 重複選択である。

資料26 基礎集計（他の受刑者との関わり方）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
顔見知り程度でかかわるようにしている	398 (41.7)	115 (47.1)	104 (43.7)	87 (36.0)	92 (40.0)
近くの同僚とは親密にしている	99 (10.4)	37 (15.2)	10 (4.2)	35 (14.5)	17 (7.4)
どんな人ともまんべんなく付き合っている	282 (29.6)	70 (28.7)	66 (27.7)	88 (36.4)	58 (25.2)
かかわりを避けている	113 (11.8)	15 (6.1)	34 (14.3)	24 (9.9)	40 (17.4)
わからない	62 (6.5)	7 (2.9)	24 (10.1)	8 (3.3)	23 (10.0)
合計	954 (100.0)	244 (100.0)	238 (100.0)	242 (100.0)	230 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料27 基礎資料（受刑生活で一番ためになったこと）

項目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
酒害，薬物，交通，暴力団に関する教育	86 (9.5)	9 (3.8)	30 (13.5)	25 (11.1)	22 (10.2)
被害者に対する教育	69 (7.6)	34 (14.2)	19 (8.6)	11 (4.9)	5 (2.3)
通信教育・教科教育	48 (5.3)	16 (6.7)	11 (5.0)	12 (5.3)	9 (4.2)
刑務作業・職業訓練	147 (16.3)	34 (14.2)	41 (18.5)	27 (11.9)	45 (20.8)
職員による面接・相談	37 (4.1)	11 (4.6)	12 (5.4)	8 (3.5)	6 (2.8)
職員以外の部外者（篤志面接委員など）による面接・相談	4 (0.4)	1 (0.4)	1 (0.5)	0 (0.0)	2 (0.9)
施設の規則正しい生活	297 (32.9)	90 (37.5)	60 (27.0)	73 (32.3)	74 (34.3)
帰住先・引受人の調整	30 (3.3)	4 (1.7)	12 (5.4)	7 (3.1)	7 (3.2)
面会・通信	127 (14.0)	28 (11.7)	25 (11.3)	40 (17.7)	34 (15.7)
慰問・講演	59 (6.5)	13 (5.4)	11 (5.0)	23 (10.2)	12 (5.6)
合計	904 (100.0)	240 (100.0)	222 (100.0)	226 (100.0)	216 (100.0)

注（ ）内は，構成比である。

資料28 基礎集計（受刑生活で得たもの）

項 目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
忍耐力がついた	181 (19.9)	45 (18.4)	45 (19.6)	45 (19.7)	46 (22.2)
家族の有り難さがわかった	309 (34.0)	88 (36.1)	83 (36.1)	64 (27.9)	74 (35.7)
人とのつき合い方を学んだ	87 (9.6)	14 (5.7)	14 (6.1)	36 (15.7)	23 (11.1)
二度と犯罪を犯さない決意ができた	193 (21.2)	61 (25.0)	63 (27.4)	35 (15.3)	34 (16.4)
被害者に対する謝罪意識が生まれた	29 (3.2)	14 (5.7)	5 (2.2)	8 (3.5)	2 (1.0)
健康になった	42 (4.5)	11 (4.5)	9 (3.9)	12 (5.2)	10 (4.8)
働く習慣が身についた	45 (4.9)	5 (2.0)	9 (3.9)	16 (7.0)	15 (7.2)
その他	10 (1.1)	4 (1.6)	1 (0.4)	5 (2.2)	0 (0.0)
特になし	14 (1.5)	2 (0.8)	1 (0.4)	8 (3.5)	3 (1.4)
合計	910 (100.0)	244 (100.0)	230 (100.0)	229 (100.0)	207 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

資料29 基礎集計（生活目標）

項 目	合計	A級		B級	
		男子	女子	男子	女子
その日その日を自由に楽しく過ごす	34 (3.6)	12 (4.9)	5 (2.1)	16 (6.6)	1 (0.5)
しっかり計画を立てて、豊かな生活を築く	554 (58.9)	136 (55.1)	135 (57.9)	148 (61.2)	135 (61.6)
身近な人たちと、なごやかな毎日を過ごす	215 (22.8)	58 (23.5)	57 (24.5)	49 (20.2)	51 (23.3)
みんなと力を合わせて世の中をよくする	45 (4.8)	16 (6.5)	13 (5.6)	10 (4.1)	6 (2.7)
その他	60 (6.4)	20 (8.1)	16 (6.9)	10 (4.1)	14 (6.4)
わからない	33 (3.5)	5 (2.0)	7 (3.0)	9 (3.7)	12 (5.5)
合計	941 (100.0)	247 (100.0)	233 (100.0)	242 (100.0)	219 (100.0)

注 () 内は、構成比である。

2005(A/B)

郵便番号

アンケート調査（調査票）

矯正協会附属中央研究所

これは、みなさんが、刑務所での生活や入所前の生活などについてどのよう^かに考^かえて
いるかを尋ねる調査です。入所^かそれぞれ、考^かえ方は違^{ちが}うので、どの考^かえが正^{ただ}しいとか、間違^{まちが}
っているという^{こと}はありませ^せん。調査票には、あなた^の名前^を書く必要^はありません。
みなさん^の刑務所^の就職^や延滞^{にも}関係^はありませんから、思^ったまま、答^えじたま^まを答^え
えてください。

答え方

例1 選択肢のあてはまる番号を一つだけ選んで、○をつける場合

質問 「私」は、サッカーをすることが好きである。

- 1 あてはまらない
- 2 あまりあてはまらない
- 3 すこしあてはまる
- ④ あてはまる

→ 「4 あてはまる」を選んだときは、4の番号に直接○をつけます。
→ 「あてはまる番号すべてに○をつけてください。」という質問の場合は、
二つ以上○をつけてください。

例2 回答欄（ ）の中に回答を一つ書く場合

質問 好きな色は何色ですか。 ()

好きな色が「黄」の場合は、() の回答欄に書きます。 → (黄)

A あなた自身のことについてお聞きます。

Q1 あなたの性別はどちらですか。

- 1 男
- 2 女

Q2 あなたの今の年齢を書いてください。()歳

- Q3 あなたの最終学歴はどれですか。
- 1 中学卒業
- 2 高校卒業
- 3 高等専門学校卒業
- 4 高校卒業後、各種専門学校を卒業
- 5 短大卒業
- 6 大学卒業又はそれ以上
- 7 その他()

Q4 あなたの言い渡し刑期は、次の1から5のいずれにあてはまりますか。

- 1 1年以下
- 2 2年以下
- 3 3年以下
- 4 5年以下
- 5 5年を超える

Q5 今回受刑することになったあなたの主な罪名の番号に一つだけ○をつけてください。

- 1 窃盗
- 2 強盗
- 3 傷害・博覧致死
- 4 住居侵入
- 5 恐喝
- 6 殺人
- 7 詐欺
- 8 横領・背任
- 9 強姦・強制わいせつ
- 10 放火
- 11 業務上過失致死傷・重過失致死傷
- 12 銃刀法違反
- 13 覚せい剤法違反
- 14 道路交通法違反
- 15 (1から14以外の) その他の罪

Q6 あなたの施設経験について、次の1から3の()の中に入所(入院)回数
を数字で書いてください。入所(入院)の経験がない場合は、()の中に「0」
と書いてください。

- 1 刑務所 ()回 (今回を含む)
- 2 少年院 ()回
- 3 少年鑑別所 ()回

次のページから質問に入ります。次のページに選んで質問に答えてください。

B 入所前の生活、現在の生活などについてお聞きします。

- Q7 別居前に入居前の1年間、だれと一緒にすごすことが多かったですか。
 1 配偶者(内縁関係を含む・妻) 2 配偶者を含めた家族 3 叔父
 4 叔母 5 姉妹の両親・先輩 6 その他
 7 一人でいることが多かった

Q8 入所前の生活で、あなたが懐いていたまわりの人についてうかがいます。次の1から9までについて、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

	たくさんいた	いた	いなかった
1 あいさつをする人	1	2	3
2 世間話をする人	1	2	3
3 話したときに助けてくれる人	1	2	3
4 悩みや不満を聞いてくれる人	1	2	3
5 自分を心配してくれる人	1	2	3
6 自分を大切にしてくれる人	1	2	3
7 親友と酔べる人	1	2	3
8 気楽に遊んだり、一緒に遊ぶ人	1	2	3
9 手紙や電子メールをやり取りする人	1	2	3

Q9 2.0歳になる前の生活について、どの程度の満足を感じていましたか。次の1から6について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

- 1 父について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 2 母について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 3 学校について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 4 友だちについて
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)

- 5 日常生活をしていた地域について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 6 世の中について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)

Q10 2.0歳になった後の自分の生活について、どの程度の満足を感じていますか。次の1から6について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

- 1 父について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 2 母について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 3 仕事について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 4 友だちについて
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 5 日常生活をしていた地域について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)
- 6 世の中について
 1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____
 (満足) (やや満足) (どちらともいえない) (やや不満) (不満)

Q11 この1週間の、あなたのからだや心の状態についてお聞きします。下の20の文章を読んでください。

- それぞれのことがらについて
もし、この1週間でまったくないか、あったとしても1日も続かない場合は A
週のうち、1～2日であった場合は B
週のうち、3～4日であった場合は C
週のうち、5日以上であった場合は D
のところを○でかこんでください。

	この1週間のうちで				
	ない	1-2日	3-4日	5日	以上
1 普段では何でもないことがわづらわしい。	A	B	C	D	
2 食べたくない。食欲が落ちた。	A	B	C	D	
3 家族や友達からはげましても、気分が晴れない。	A	B	C	D	
4 他の人と同じ程度には、能力があると思う。	A	B	C	D	
5 物事に集中できない。	A	B	C	D	
6 ゆううつだ。	A	B	C	D	
7 何をするのも面倒だ。	A	B	C	D	
8 これから先のことについて積極的に考えることができる。	A	B	C	D	
9 過去のことについてよくよく考える。	A	B	C	D	
10 何か恐ろしい気持ちがある。	A	B	C	D	
11 なかなか眠れない。	A	B	C	D	
12 生活について不満なくすごせる。	A	B	C	D	
13 ふだんより口数が少ない。口が重い。	A	B	C	D	
14 一人ぼっちでさびしい。	A	B	C	D	
15 皆がよそよそしいと思う。	A	B	C	D	
16 毎日が楽しい。	A	B	C	D	
17 急に泣きたずことがある。	A	B	C	D	
18 楽しいと感じる。	A	B	C	D	
19 皆が自分をきらっていると感じる。	A	B	C	D	
20 仕事に手がつかない。	A	B	C	D	

C 仕事についてお聞きします。

Q12 今回の事件を起こしたとき、何か仕事をしていたか。
1 仕事をしていた 2 仕事をしていたがなかった

Q12で「2」と答えた人は、Q13に選んでください。
「1」と答えた人は、Q13は飛ばしてQ14に選んでください。

Q13 Q12で「2」と答えた人は、そのあてはまる理由を一つ選んでください。

- 働きたかったが、望む仕事なかった
- 働きたかったが、仕様が切れていた
- 働きたかったが、体の具合が悪かった
- 働く気持ちがわいていなかった
- 遊んでいた
- 働かなくても、生活ができていた
- その他

Q14 あなたが仕事を選ぶ上で、最も重要だと思ふものを一つ選んでください。

- 働く時間が短い仕事
- 失業の心配がない仕事
- 健康をそこなう心配がない仕事
- 高い収入が得られる仕事
- 仲間と楽しく働ける仕事
- 責任者として、実力を発揮できる仕事
- 独立して人に気兼ねなくやれる仕事
- 専門知識や特技が生かせる仕事
- 世間からためてはやされる仕事
- 世の垢のためになる仕事
- その他 ()
- できるものならなんでもいい
- わからない

D 事件事件についてお聞きします。

Q15 今回事件を起して刑務所に入ることになったことの一番の原因だと思っていることは何ですか。一番近い考えを一つ選んでください。

- 1 世の中の仕組みをよくわかっていなかった
- 2 お金がなかった
- 3 派手な生活をしたかった
- 4 育った家庭が壊れた
- 5 周りの人や家族が自分にやさしくしてくれなかった
- 6 すぐに怒ったり、気分が悪くなりやすい
- 7 気分がゆるんでいた
- 8 人に影響されたり、流されたりしやすい
- 9 人に自慢したり、負けたくない気持ちがあった
- 10 能力が足りなかった
- 11 動めていた会社や友だちが悪かった
- 12 その他

Q16 出所後、また犯罪をしてしまうのではないかと不安がありますか。

- 1 不安はない
- 2 あまり不安はない
- 3 やや不安がある
- 4 不安がある

Q17 今回、受刑することになった本件の主な罪名となった事件の被害者はいますか。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

Q18 あなたはどのようにすることが自分の罪を償うことになると感じますか。一番近い考えを一つ選んでください。

- 1 刑を務めること
- 2 お金や物で弁償をすること
- 3 被害者（被害者の家族等を含む）に自分の謝罪の気持ちを手紙や直接会うことを通して伝えること
- 4 お金や物で弁償をし、刑を務めること
- 5 刑を務め、謝罪の気持ちを伝えること
- 6 刑を務め、再犯しないこと
- 7 お金や物で弁償をして謝罪の気持ちを伝えること
- 8 お金や物で弁償をし、再犯しないこと
- 9 謝罪し、再犯しないこと

E 受刑生活についてお聞きします。

Q19 あなたが、受刑生活で社会の色々な出来事を知るのには何によってですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 新聞
- 2 雑誌（マンガを除く）
- 3 マンガ・劇画
- 4 所内誌（所内紙）・「人」新聞
- 5 手紙
- 6 面会
- 7 所内放送・職員の話
- 8 所内の掲示物
- 9 VTR/テレビ・ラジオ
- 10 部外協力者（長嶋人）の講話
- 11 うわさ
- 12 その他

Q20 刑務所での宗教・教団の活動について、あなたはどのように感じていますか。

- 1 興味・関心がある
- 2 興味・関心がない
- 3 知らない
- 4 わからない

Q21 刑務所での馬術面接の活動について、あなたはどのように感じていますか。

- 1 興味・関心がある
- 2 興味・関心がない
- 3 知らない
- 4 わからない

Q22 刑務所に入っている間に職業訓練を受けたことがありますか。以前の受刑期間も含めて教えてください。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q23 職業訓練について、どのように考えていますか。

- 1 受けてみたい
- 2 受けたくない

Q24 今後、機会があれば受けてみたい職業訓練種目を一つ選んでください。

- 1 木工関係
- 2 金属関係
- 3 建築関係
- 4 電気関係
- 5 自動車関係
- 6 左官・土木関係
- 7 コンピュータ関係
- 8 介護・福祉関係
- 9 その他の訓練

Q25 あなたは刑務所の規律（きまり）について、どのように感じていますか。

- 1 厳しい
- 2 やや厳しい
- 3 どちらともいえない
- 4 ややゆるい
- 5 ゆるい

Q30 受刑生活を告めて、あなたの生活の目標に一番近いものを一つだけ選んでください。

- 1 その日その日を自由に楽しく過ごす
- 2 しつかりと計画を立てて、豊かな生活を築く
- 3 身近な人たちと、なごやかな毎日を過ごす
- 4 みんなと力を合わせて世の中をよくする
- 5 その他
- 6 わからない

Q26 あなたは、作業時間、宿舎などをぞのぞいた時間（余暇時間）をどのように過ごすごとが多いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 読書、音楽、コースなどグループでの活動に参加している。
- 2 資格を取るために、通信教育の勉強をしている。
- 3 趣味、映画などの雑誌を読んでいる。
- 4 文芸書、専門書などを読んだり、勉強したりしている。
- 5 手紙を書いたり、絵んだり、文章を書いたりしている。
- 6 新聞を読んでいる。
- 7 これといったことはしないで、心身を休ませている。
- 8 所内行事の手伝いの準備をしている。
- 9 所内の自分に与えられた仕事について、準備をしている。
- 10 その他（ ）

Q27 受刑生活での同僚とのかわりについて、どのように考えていますか。

- 1 親しみ程度にかかわるようになっている
- 2 近くの同僚とは親密にしている
- 3 どんな人ともまよばんなく付き合っている
- 4 かかわりを避けている
- 5 わからない

Q28 受刑生活で、あなたが一番ためになったと感じたものを一つ選んでください。

- 1 酒肴、食物、交通、暴力団に関する教育
- 2 被害者に贈る家書
- 3 通信教育、教科教育
- 4 刑務作業、職業訓練
- 5 職員による面談、相談
- 6 職員以外の部外者（矯正面接委員など）による面談・相談
- 7 施設の規則正しい生活
- 8 矯正先、刑務人の調整
- 9 面談、通信
- 10 慰問、講演

Q29 受刑生活で待たされたものを一つ選んでください。

- 1 忍耐力がついた
- 2 家族の有り難さがわかった
- 3 人との付き合い方を学んだ
- 4 二度と犯罪を犯さない決意ができた
- 5 被害者に送る謝罪意識が生まれた
- 6 健康になった
- 7 働く習慣が身についた
- 8 その他
- 9 特になし

これでおわりです。

** ご協力ありがとうございました。***